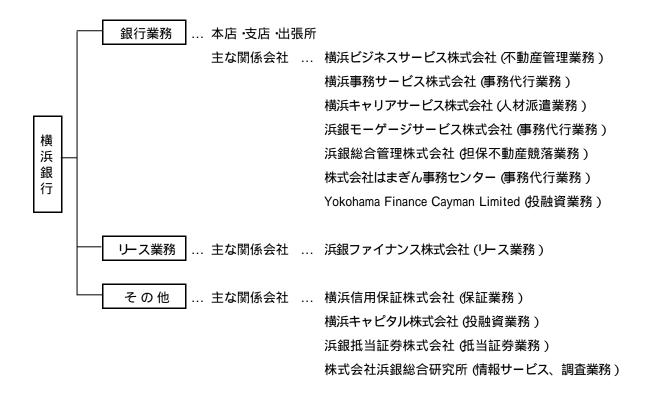
.企業集団の状況

1.事業の内容

当行グループ (当行及び当行の関係会社)は、当行および子会社17社で構成され、銀行業務を中心に、リース業務などの金融サービスに係る事業を行っております。

2.事業系統図



.経 営 方 針

(1)経営の基本方針

横浜銀行グループは、お取引先・株主・行員の連帯と融和により限りない発展をめざす「スリーシップスの精神」を基本理念とし、平成 15 年 4 月から平成 18 年 3 月までの 3 か年を計画期間とする中期経営計画「バリューアップ」で掲げる「地域のお客さまに強く支持される銀行」をめざして、さまざまな施策に取り組んでおります。

(2)中長期的な経営戦略

金融界におきましては、金融サービス分野の規制緩和の進展やお客さまのニーズの多様化・高度化等により、業種を超えた競争がますます激化するものと見込まれる一方、資産デフレの進行や景気の低迷が長引く環境のもとで、地域金融機関については、不良債権問題解決に向けた中小企業金融の機能強化が重要な課題となっており、充実した金融サービスの提供ならびに経営の健全性の向上がより一層求められております。

こうした厳しい状況に対して、当行は、中期経営計画「バリューアップ」に基づき、これまで取り組んできたリージョナル・リテール戦略を一層深化させることにより、経営の健全性を高めるとともに、地元金融機関としての存立基盤を盤石なものとし、地域のお客さまやマーケットからの評価を高めていくよう努めてまいります。

(3) コーポレートガバナンスに関する基本的な考え方及びその施策の実施状況

当行では、商法等の法令の趣旨を尊重し、取締役会および監査役により、取締役の職務執行の監督・監査を行なっております。また、取締役数の削減や執行役員制度の採用による管理部門と営業部門の役割の明確化により、経営上の意思決定と業務執行の迅速化を進める一方、取締役会の活性化のために取締役の任期を1年としております。なお、監査役には、社外監査役を2名配置し、監査機能の強化に努めるとともに、業務の適法性監査を基本とした監査を厳正に実施しています。

法令等の遵守につきましては、「法令等の遵守が経営の最重要課題のひとつである」と認識した上で、法令等の遵守の徹底とコンプライアンス態勢の整備強化に努めております。具体的には、年度ごとに、コンプライアンス実現のための具体的な実践計画である「コンプライアンスプログラム」を取締役会で決定し、その実践に取り組む一方、頭取を議長とする「オペレーショナルリスク会議」を定期的に開催し、経営の法令等遵守の徹底を促すとともに、監査部からの業務監査や法令等遵守状況の検証の報告、経営管理部コンプライアンス統括室からのコンプライアンス上の問題事例の原因・再発防止策の報告などを受けて、法令等違反の未然防止などについて協議・指導を行なっています。

また、当行全体のコンプライアンス統括部署として、経営管理部コンプライアンス統括室を従来の経営 管理部法務コンプライアンス室から分離し、コンプライアンス管理体制をさらに強化しております。

(4)対処すべき課題

今後につきましても、リージョナル・リテール分野に特化した営業力の強化、経営合理化の徹底による 更なるローコストオペレーション態勢の確立、リスク管理の高度化によるリスクに見合ったリターンの確 保等に当行グループ全体で積極的に取り組むことを通じて経営体質を強化する一方、稠密な店舗網等を利 用した情報活用の高度化をさらに進めることにより、地域のお客さまのニーズや期待に的確にお応えする 良質な商品・サービスを提供するよう努めてまいります。また、引き続き、当行グループ機能のフル活用 による地元中小企業への再生支援活動を通じて、地域経済の発展に貢献してまいります。

こうした努力をとおして、収益性と健全性の高い「良質な銀行」となり、「地域のお客さまに強く支持される銀行」の実現をめざしてまいります。

(5)利益配分に関する基本方針

利益配分につきましては、銀行の公共的使命を念頭において、長期にわたる安定的な経営基盤の確保に努めるとともに、配当についても安定的な配当の実施を基本方針としております。

.経営の成績および財政状態

1. 当期の概況

(1)業績全般

当期(平成 15 年 3 月期連結決算)では、リージョナル・リテール業務に特化した営業活動の徹底による収益力の強化に加えて、コストの削減を着実に実施してまいりました。一方、株式等償却が高水準であったことから、経常利益は前期比 19%、当期純利益は前期比 14%の減益となりました。

(2)資産、負債等の状況

預金は、総合取引の推進等による拡大に努めました結果、低い金利水準が継続する中で、当期において 2,651 億円増加し、9 兆 3,641 億円となりました。このうち、定期性預金は当期において 3,543 億円減少し、 3 兆 4,836 億円となりました。

次に、貸出金は、個人を中心に取引拡大に努めた結果、当期において 2,396 億円増加し、7 兆 8,330 億円となりました。また、有価証券は、当期において 5,385 億円増加し、1 兆 4,922 億円となりました。

そのほか、総資産は、当期において 921 億円減少し、10 兆 6,727 億円となりました。

なお、自己資本比率は、連結が10.32%(速報値) 銀行単体が10.22%(速報値)となりました。

	平成11年3月末	平成12年3月末	平成13年3月末	平成14年3月末	平成 15 年 3 月末
_					
自己資本比率	10.04%	10.03%	9.59%	10.72%	10.32% (速報値)

自己資本比率は、銀行法第 14 条の 2 の規定に基づき算出しております。なお、当行は、国内基準を採用しております。

(3)損益の状況

損益につきましては、引き続き低金利局面の中にあって、貸出金等の受入利息が減少したことなどから、経常収益は前期に比べ252億7千5百万円減少し、2,854億3千2百万円となりました。一方、経常費用は、株価下落の影響により減損処理額が増加したものの、預金等の支払利息が減少し、さらに、経費の抑制にも努めました結果、前期と比べ188億5百万円減少し、2,582億7千6百万円となりました。

以上により、当期は、経常利益が前期に比べ 64億7千万円減少し、271億5千6百万円に、当期純利益は前期に比べ 29億5千6百万円減少し、168億9千6百万円となりました。

(4)配当に関する事項

銀行単体の配当につきましては、安定的な配当の実施を基本方針としており、期末利益配当金は中間期末に見送りした中間配当と一括し、前期年間配当金と同額の年 5 円を予定しております。

2. 通期の見通し

平成16年3月期通期の連結ベースでの業績につきましては、グループ全体で諸施策を着実に実施することなどにより、経常収益2,360億円、経常利益560億円、当期純利益315億円を見込んでおります。

また、銀行単体の業績につきましては、経常収益2,300億円、経常利益560億円、当期利益315億円を見込んでおります。

連結貸借対照表

平成15年3月31日現在

株式会社 横 浜 銀 行 (単位:百万円)

			(単位:百万円)
科目	金額	科目	金額
(資産の部)		(負債の部)	
現 金 預 け 金	493,925	預 金	9,364,106
コールローン及び買入手形	19,436	譲渡性預金	69,488
買入金銭債権	62,341	コールマネー及び売渡手形	276
特定取引資産	72,529	特定取引負債	4,167
有 価 証 券	1,492,241	借 用 金	221,987
貸 出 金	7,833,029	外 国 為 替	151
外 国 為 替	7,582	社 債	45,999
その他資産	133,562	新株予約権付社債	60,000
動 産 不 動 産	206,014	その他負債	113,721
繰 延 税 金 資 産	139,518	退職給付引当金	68
支 払 承 諾 見 返	303,666	債 権 売 却 損 失 引 当 金	1,815
貸 倒 引 当 金	91,051	特 別 法 上 の 引 当 金	0
		再評価に係る繰延税金負債	22,536
		連結調整勘定	1,450
		支 払 承 諾	303,666
		負債の部合計	10,209,435
		(少数株主持分)	
		少数株主持分	6,135
		(資本の部)	
		資 本 金	184,803
		資 本 剰 余 金	146,281
		利 益 剰 余 金	113,613
		土 地 再 評 価 差 額 金	33,206
		株式等評価差額金	20,348
		為 替 換 算 調 整 勘 定	0
		自 己 株 式	330
		資本の部合計	457,225
資 産 の 部 合 計	10,672,796	負 債 、少 数 株 主 持 分 及 び 資 本 の 部 合 計	10,672,796
	·		·

(注)

- 1.記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。
- 2.金利、通貨の価格、有価証券市場における相場その他の指標に係る短期的な変動、市場間の格差等を利用して利益を得る等の目的(以下「特定取引目的」という。)の取引については、取引の約定時点を基準とし、連結貸借対照表上「特定取引資産」及び「特定取引負債」に計上しております。

特定取引資産及び特定取引負債の評価は、有価証券及び金銭債権等については連結決算日の時価により、 スワップ・先物・オプション取引等の派生商品については連結決算日において決済したものとみなした額 により行っております。

- 3.有価証券の評価は、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法(定額法)、その他有価証券のうち時価のあるものについては連結決算日の市場価格等に基づく時価法(売却原価は移動平均法により算定)、時価のないものについては移動平均法による原価法又は償却原価法により行っております。なお、その他有価証券の評価差額については、全部資本直入法により処理しております。
- 4. デリバティブ取引(特定取引目的の取引を除く)の評価は、時価法により行っております。
- 5.動産不動産の減価償却は、定率法(ただし、平成10年4月1日以後に取得した建物(建物附属設備を除く。)については定額法)を採用しております。なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建 物 2年~60年

動 産 2年~20年

連結される子会社及び子法人等のうち浜銀ファイナンス株式会社の保有するリース資産については、リース期間を償却年数とするリース期間定額法によっており、その他の連結される子会社及び子法人等については、主として定率法を採用しております。

- 6. 自社利用のソフトウェアについては、当行及び連結される子会社及び子法人等で定める利用可能期間 (5年)に基づく定額法により償却しております。
- 7. 当行の外貨建資産・負債は、主として連結決算日の為替相場による円換算額を付しております。

外貨建取引等の会計処理につきましては、従来、「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する当面の会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第 20 号)を適用しておりましたが、当連結会計年度からは「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第25号)を適用しております。

なお、当連結会計年度は、日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第 25 号に規定する経過措置を適用し、「資金関連スワップ取引」、「通貨スワップ取引」及び「インターナル・コントラクト及び連結会社間取引の取扱い」については、従前の方法により会計処理しております。また、先物為替取引等に係る円換算差金については、連結貸借対照表上、相殺表示しております。

資金関連スワップ取引については、日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第 25 号に規定する経過措置に基づき、債権元本相当額及び債務元本相当額の連結決算日の為替相場による正味の円換算額を貸借対照表に計上し、異種通貨間の金利差を反映した直先差金は直物外国為替取引の決済日の属する期までの期間にわたり発生主義により連結損益計算書に計上するとともに、連結決算日の未収収益又は未払費用を計上しております。

なお、資金関連スワップ取引とは、異なる通貨での資金調達・運用を動機として行われ、当該資金の調達又は運用に係る元本相当額を直物買為替又は直物売為替とし、当該元本相当額に将来支払うべき又は支払を受けるべき金額・期日の確定している外貨相当額を含めて先物買為替又は先物売為替とした為替スワップ取引であります。

異なる通貨での資金調達・運用を動機とし、契約締結時における元本相当額の支払額又は受取額と通貨スワップ契約満了時における元本相当額の受取額又は支払額が同額で、かつ、元本部分と金利部分に適用されるスワップレートが合理的なレートである直先フラット型の通貨スワップ取引(利息相当額の支払日ごとにその時点の実勢為替相場を反映して一方の通貨の元本相当額を更改し、かつ、各利払期間ごとに直先フラットである通貨スワップ取引を含む)については、日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第25号に規定する経過措置に基づき、債権元本相当額及び債務元本相当額の連結決算日の為替相場による正味の円換算額を連結貸借対照表に計上し、交換利息相当額はその期間にわたり発生主義により連結損益計算書に計上するとともに、連結決算日の未収収益又は未払費用を計上しております。

連結される子会社及び子法人等の外貨建資産・負債については、それぞれの決算日等の為替相場により 換算しております。 8. 当行の貸倒引当金は、予め定めている償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。

破産、特別清算等、法的に経営破綻の事実が発生している債務者(以下、「破綻先」という)に係る債権 及びそれと同等の状況にある債務者(以下、「実質破綻先」という)の債権については、下記直接減額後の帳 簿価額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しております。 また、現在は経営破綻の状況にないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者(以下、 「破綻懸念先」という)に係る債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可 能見込額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断し必要と認める額を計上しておりま

なお、破綻懸念先及び下記19.の貸出条件緩和債権等を有する債務者で、債権の元本の回収及び利息の受取りに係るキャッシュ・フローを合理的に見積もることができる債権については、当該キャッシュ・フローを当初の約定利子率で割引いた金額と債権の帳簿価額との差額を貸倒引当金とする方法(キャッシュ・フロー見積法。以下、「DCF法」という)により引当てております。

上記以外の債権については、過去の一定期間における貸倒実績から算出した貸倒実績率等に基づき計上しております。

すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、営業関連部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しており、その査定結果に基づいて上記の引当てを行っております。

破綻先及び実質破綻先に対する担保・保証付債権等については、債権額から担保の評価額及び保証による 回収が可能と認められる額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額しており、その金額 は217,976百万円であります。

連結される子会社及び子法人等の貸倒引当金は、一般債権については過去の貸倒実績率等を勘案して必要と認めた額を、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額をそれぞれ引き当てております。

9.退職給付引当金は、従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、必要額を計上することとしております。

また、数理計算上の差異の費用処理方法は以下のとおりであります。

数理計算上の差異 各連結会計年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数(15年) による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理

当行は、確定給付企業年金法の施行に伴い、平成 15 年 3 月 1 日にその代行部分について厚生労働大臣から将来分支給義務免除の認可を受けました。

これに伴い、当行は「退職給付会計に関する実務指針(中間報告)」(日本公認会計士協会会計制度委員会報告第13号)第47-2項に定める経過措置を適用し、当該認可の日において代行部分にかかる退職給付債務と返還相当額の年金資産を消滅したものとみなして会計処理をしております。なお、当連結会計年度末における返還相当額は28,833百万円であります。

- 10.債権売却損失引当金は、株式会社共同債権買取機構に売却した不動産担保付債権の担保価値を勘案し、将来発生する可能性のある損失を見積もり、必要と認められる額を計上しております。なお、この引当金は商法旧第287条ノ2に規定する引当金であります。
- 1.1.リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に準じた会計処理によっております。
- 12.当行のヘッジ会計の方法は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号)に規定する経過措置に基づき、貸出金・預金等の多数の金融資産・負債から生じる金利リスクをデリバティブ取引を用いて総体で管理する、「マクロヘッジ」を実施しております。これは、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する当面の会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第15号)に定められたリスク調整アプローチによるリスク管理であり、繰延ヘッジによる会計処理を行っております。また、リスク管理方針に定められた許容リスク量の範囲内にリスク調整手段となるデリバティブのリスク量が収まっており、ヘッジ対象の金利リスクが減殺されているかどうかを検証することにより、ヘッジの有効性を評価しております。

なお、一部の資産・負債については、金利スワップの特例処理を行っております。

連結される子会社及び子法人等のヘッジ会計の方法は、繰延ヘッジ処理を採用しております。なお、金利スワップについては、特例処理の要件を満たしている場合には特例処理を採用しております。

13. 当行及び国内の連結される子会社及び子法人等の消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

14.特別法上の引当金は、次のとおり計上しております。

証券取引責任準備金 0百万円

証券取引法第 65 条の2第7項において準用する証券取引法第 51 条の規定に基づく準備金であります。

15.動産不動産の減価償却累計額

254,973 百万円

16.動産不動産の圧縮記帳額

113,586 百万円

17.貸出金のうち、破綻先債権額は15,250百万円、延滞債権額は244,736百万円であります。 なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金(貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という。)のうち、法人税法施行令(昭和40年政令第97号)第96条第1項第3号のイからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸出金であります。

また、延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸出金以外の貸出金であります。

18.貸出金のうち、3カ月以上延滞債権額は15,255百万円であります。

なお、3カ月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日を起算日として3カ月以上遅延 している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものであります。

19.貸出金のうち、貸出条件緩和債権額は119,017百万円であります。

なお、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権及び3カ月以上延滞債権に該当しないものであります。

20.破綻先債権額、 延滞債権額、3カ月以上延滞債権額及び貸出条件緩和債権額の合計額は394,259百万円であります。

なお、17.から20.に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。

- 21. 手形割引は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号)に基づき金融取引として処理しております。これにより受け入れた商業手形及び買入外国為替は、売却又は再担保という方法で自由に処分できる権利を有しておりますが、その額面金額は96,722百万円であります。
- 22.担保に供している資産は次のとおりであります。

担保に供している資産

有価証券 5 4 0 , 3 8 5 百万円 貸出金 4 1 , 6 3 9 百万円

担保資産に対応する債務

預金 54,083 百万円

上記のほか、為替決済等の取引の担保あるいは先物取引証拠金等の代用として、有価証券140,914百万円を差し入れております。

また、動産不動産のうち保証金権利金は10,087百万円

- 23.ヘッジ手段に係る損益又は評価差額は、純額で繰延ヘッジ損失として計上しております。なお、上記相殺前の繰延ヘッジ損失の総額は9,599百万円、繰延ヘッジ利益の総額は5,972百万円であります。
- 24.土地の再評価に関する法律(平成10年3月31日公布法律第34号)に基づき、当行の事業用の土地の再評価を行い、評価差額については、当該評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として資本の部に計上しております。

再評価を行った年月日

平成10年3月31日

同法律第3条第3項に定める再評価の方法

土地の再評価に関する法律施行令(平成 10 年 3 月 31 日公布政令第 119 号)第 2 条第 1 号に定める「地価公示法第 6 条に規定する標準地について同条の規定により公示された価格」に基づいて、近隣売買事例による補正等合理的な調整を行って算出

同法律第10条に定める再評価を行った事業用土地の当連結会計年度末における時価の合計額と当該事業 用土地の再評価後の帳簿価額の合計額との差額 36,377百万円

- 25.借用金には、他の債務よりも債務の履行が後順位である旨の特約が付された劣後特約付 借入金159,000百万円が含まれております。
- 26.社債は、劣後特約付社債45,999百万円であります。
- 27.1株当たりの純資産額

3 1 2 円 7 2 銭

なお、当連結会計年度から「1株当たり当期純利益に関する会計基準」(企業会計基準第2号)等が適用 されたことに伴う影響額は、下記36.に記載しております。

2.8.有価証券の時価、評価差額等に関する事項は次のとおりであります。これらには、「有価証券証券」の ほか、「特定取引資産」中の商品有価証券、並びに「買入金銭債権」中の信託受益権が含まれております。 以下32.まで同様であります。

売買目的有価証券

連結貸借対照表計上額

68,572 百万円

当連結会計年度の損益に含まれた評価差額

22 百万円

満期保有目的の債券で時価のあるもの

	連結貸借	時 価	差	額		
	対照表計上額				うち益	うち損
社債	20,398 百万円	20,352 百万円		45 百万円	62 百万円	107 百万円
その他	2,799 百万円	2,800 百万円		0 百万円	0 百万円	百万円
合計	23,198 百万円	23,153 百万円		44 百万円	62 百万円	107 百万円

その他有価証券で時価のあるもの

	取得原価	連結貸借 対照表計上額	評価差額	うち益	うち損
株式	212,751 百万円	172,511 百万円	40,240 百万円	8,257 百万円	48,498 百万円
債券	1,118,506 百万円	1,123,414 百万円	4,908 百万円	5,559 百万円	651 百万円
国債	519,786 百万円	520,937 百万円	1,151 百万円	1,275 百万円	124 百万円
地方債	290,747 百万円	293,117 百万円	2,369 百万円	2,561 百万円	191 百万円
社債	307,971 百万円	309,359 百万円	1,387 百万円	1,722 百万円	335 百万円
その他	131,575 百万円	132,584 百万円	1,008 百万円	1,134 百万円	126 百万円
合計	1,462,832 百万円	1,428,509 百万円	34,323 百万円	14,952 百万円	49,275 百万円

なお、上記の評価差額に繰延税金資産13,878百万円を加えた額のうち少数株主持分相当額 95百万円を控除した額 20,348百万円が、「株式等評価差額金」に含まれています。

当連結会計年度において、その他有価証券で時価のあるもののうち、当該有価証券の時価が取得原 価に比べて著しく下落したものについては、原則時価が取得原価まで回復する見込みがないものとみ なして、当該時価をもって連結貸借対照表価額とし、評価差額を当連結会計年度の損失として処理 (以下、「減損処理」という)しております。当連結会計年度における減損処理額は、32,277 百万円であります。時価が「著しく下落した」と判断するための基準は、資産の自己査定基準におい て、有価証券の発行会社の区分ごとに次のとおり定めております。

破綻先、実質破綻先、破綻懸念先

時価が取得原価に比べて下落

時価が取得原価に比べて30%以上下落

要注意先 正常先 時価が取得原価に比べて50%以上下落

なお、要注意先とは今後管理に注意を要する債務者、正常先とは破綻先、実質破綻先、破綻懸念先 及び要注意先以外の債務者であります。

29. 当連結会計年度中に売却したその他有価証券は次のとおりであります。

売却額 売却益 売却損

1,418,461 百万円 12,446 百万円 8.818 百万円 30.時価のない有価証券のうち、主なものの内容と連結貸借対照表計上額は、次のとおりであります。

内 容 連結貸借対照表計上額

満期保有目的の債券

事業債 58,685 百万円 地方公社債 3,409 百万円

その他有価証券

非上場株式(店頭売買株式を除く) 16,967 百万円

3 1. 当連結会計年度中に、満期保有目的の債券99百万円の保有目的を、債券の発行者の信用状態の著しい悪化の理由により変更し、その他有価証券に区分しております。この変更による経常利益及び税金等調整前当期純利益への影響はありません。

3 2 . その他有価証券のうち満期があるもの及び満期保有目的の債券の期間ごとの償還予定額は次のとおりであります。

	1年以内	1年超5年以内	5 年超 10 年以内	10 年超
債券	279,941 百万円	881,852 百万円	27,002 百万円	14,506 百万円
国債	109,792 百万円	409,589 百万円	1,068 百万円	487 百万円
地方債	44,215 百万円	237,845 百万円	8,775 百万円	2,280 百万円
社債	125,934 百万円	234,416 百万円	17,158 百万円	11,737 百万円
その他	22,058 百万円	97,365 百万円	6,842 百万円	12,889 百万円
合計	302,000 百万円	979,218 百万円	33,844 百万円	27,395 百万円

33.当座貸越契約及び貸付金に係るコミットメントライン契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸付けることを約する契約であります。これらの契約に係る融資未実行残高は、926,712百万円であります。このうち契約残存期間が1年以内のものが439,344百万円あります。

なお、これらの契約の多くは、融資実行されずに終了するものであるため、融資未実行残高そのものが必ずしも当行の将来のキャッシュ・フローに影響を与えるものではありません。これらの契約の多くには、金融情勢の変化、債権の保全、その他相当の事由があるときは、当行が実行の申し込みを受けた融資の拒絶又は契約極度額の減額をすることができる旨の条項が付けられております。また、契約時において必要に応じて不動産・有価証券等の担保を徴求するほか、契約後も定期的に予め定めている行内手続きに基づき顧客の業況等を把握し、必要に応じて契約の見直し、与信保全上の措置等を講じております。

34. 当連結会計年度末の退職給付債務等は以下のとおりであります。

退職給付債務	77,680	百万円	
年金資産(時価)	36,017	百万円	
退職給付信託	11,544	百万円	
未積立退職給付債務	30,118	百万円	
未認識数理計算上の差異	52,028	百万円	
連結貸借対照表計上額の純額	21,910	百万円	
前払年金費用	21,978	百万円	
退職給付引当金	68	百万円	

- 35.「自己株式及び法定準備金の取崩等に関する会計基準」(企業会計基準第1号)が平成14年4月1日以後に適用されることになったことに伴い、当連結会計年度から同会計基準を適用しております。なお、これによる当連結会計年度の資産および資本に与える影響は軽微であります。
- 36.1株当たり当期純利益に関する会計基準」(企業会計基準第2号)および「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第4号)が平成14年4月1日以後開始する連結会計年度に係る連結財務諸表から適用されることになったことに伴い、当連結会計年度から同会計基準及び適用指針を適用しております。なお、前連結会計年度において採用していた方法により算定した場合の1株当たり当期純利益金額等は以下のとおりであります。

1株当たり純資産額 313円92銭

1株当たり当期純利益金額 13円65銭

潜在株式調整後

1株当たり当期純利益金額 12円08銭

- 3 7 . 銀行法施行規則別紙様式が「銀行法施行規則の一部を改正する内閣府令」(平成 15 年 4 月 22 日付内閣府 令第 47 号)により改正されたこと等に伴い、当連結会計年度から次のとおり表示方法を変更しております。
- (1)前連結会計年度において区分掲記していた「転換社債」は、当連結会計年度からは「新株予約権付社債」 に含めて表示しております。
- (2)前連結会計年度において区分掲記していた「再評価差額金」は、当連結会計年度からは「土地再評価差額 金」として表示しております。
- (3)前連結会計年度において区分掲記していた「評価差額金」は、当連結会計年度からは「株式等評価差額金」として表示しております。
- (4)前連結会計年度において資本の部は、「資本金」、「資本準備金」及び「連結剰余金」として区分掲記しておりましたが、当連結会計年度からは、「資本金」、「資本剰余金」及び「利益剰余金」として表示しております。
- 38.東京都にかかる事業税の課税標準については、「東京都における銀行業等に対する事業税の課税標準等の特例に関する条例」(平成12年東京都条例第145号)(以下都条例)が施行されたことに伴い、従来の所得から業務粗利益に変更になりました。

平成 12 年 10 月 18 日、当行は、東京都及び東京都知事を被告として、都条例の無効確認等を求めて東京地方裁判所に提訴し、平成 14 年 3 月 26 日、東京地方裁判所は、都条例が違法無効であることを理由として、誤納金 5 3 2 百万円及び損害賠償金 1 0 0 百万円の請求を認める判決を言い渡しました。さらに、平成 14 年 3 月 29 日、東京都は、東京高等裁判所に控訴し、同年 4 月 9 日、当行を含む一審原告各行も東京高等裁判所に控訴し、平成 15 年 1 月 30 日、東京高等裁判所は、都条例が違法無効であることを理由として、誤納金 1 , 0 5 4 百万円の請求を認める判決を言い渡しました。同年 2 月 10 日、東京都は、上告及び上告受理申立てをし、同月 13 日、当行を含む一審原告各行も上告及び上告受理申立てをしております。

このように当行は都条例が違憲・違法であると考え、その旨を訴訟において主張して係争中であり、当連結会計年度における会計処理についても、前連結会計年度と同様に東京都に係る事業税を都条例に基づく外形標準課税基準による事業税として処理しているものの、これは現時点では従来の会計処理を継続適用することが適当であると判断されるためであり、都条例を合憲・適法なものと認めたということではありません。上記条例施行に伴い、東京都にかかる事業税については、当連結会計年度は472百万円をその他の経常費用に計上しており、所得が課税標準である場合に比べ経常利益は同額減少しております。また、所得が課税標準である場合に比べ、「法人税、住民税及び事業税」が当連結会計年度は80百万円減少しております。また、当該事業税は税効果会計の計算に含められる税金でないため、所得が課税標準である場合に比べ、「繰延税金資産」は1,460百万円減少いたしました。また、「再評価に係る繰延税金負債」は、245百万円減少し、「土地再評価差額金」及び「株式等評価差額金」は、それぞれ245百万円、149百万円増加しております。

また、大阪府にかかる事業税の課税標準についても、「大阪府における銀行業等に対する事業税の課税標準等の特例に関する条例」(平成12年大阪府条例第131号)(以下府条例)が施行されたことに伴い、従来の所得から業務粗利益に変更になりました。

平成 14 年 4 月 4 日に、当行は、大阪府及び大阪府知事を被告として、府条例の無効確認等を求めて大阪地方裁判所に提訴しました。なお、大阪府に係る事業税については、平成 14 年 5 月 30 日に「大阪府における銀行業等に対する事業税の課税標準等の特例に関する条例の一部を改正する条例」(平成 14 年大阪府条例第 77 号)(以下平成 14 年改正府条例)が、平成 15 年 4 月 1 日に「大阪府における銀行業等に対する事業税の課税標準等の特例に関する条例の一部を改正する条例」(平成 15 年大阪府条例第 14 号)(以下平成 15 年改正府条例)が、それぞれ施行されたことにより、府条例による課税標準等の特例は平成 15 年 4 月 1 日以後開始する連結会計年度より適用されることとなりました。これにより、当連結会計年度にかかる大阪府に対する事業税については、平成 1 5 年改正府条例附則 2 の適用を受け、当行の場合、外形標準課税基準と所得基準のうち低い額となる、所得を課税標準として計算される額を申告・納付する予定であります。ただし、この申告・納付によって、府条例、平成 14 年改正府条例及び平成 15 年改正府条例を高速、立ていため、の申告・納付によって、府条例、平成 14 年改正府条例及び平成 15 年改正府条例を高速なものと認めたということではありません。また、当該事業税は税効果会計の計算に含められる税金でないため、所得が課税標準である場合に比べ、「繰延税金資産」は 7 1 百万円減少しました。また、「再評価に係る繰延税金負債」は、1 2 百万円減少し、「土地再評価差額金」及び「株式評価差額金」は、それぞれ 1 2 百万円、7 百万円増加しております。

「地方税法等の一部を改正する法律」(平成 15 年法律第 9 号)が平成 15 年 3 月 31 日に公布され、平成 16 年 4 月 1 日以後開始する連結会計年度より銀行業に対する法人事業税にかかる課税標準が、従来の「所得及び清算所得」と規定されていたもの(平成 15 年改正前地方税法第 72 条の 12)から、「付加価値額」、「資本等の金額」及び「所得及び清算所得」に変更されることにより、「付加価値額」及び「資本等の金額」が課税標準となる事業税は、利益に関連する金額を課税標準とする税金には該当しないことになります。また、これを受けて都条例及び府条例に基づく東京都、大阪府に係る法人事業税は、平成 16 年 4 月 1日に開始する連結会計年度以降は、法律上の根拠を失い適用されないこととなります。

この変更に伴い、当行の繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する平成 16 年度以降の法定実効税

率は、当連結会計年度の41.53%から40.43%となり、繰延税金資産の金額は2,511百万円減少し、当連結会計年度に計上された法人税等調整額の金額は2,118百万円増加しております。再評価に係る繰延税金負債の金額は613百万円減少し、土地再評価差額金の金額は同額増加しております。また、株式等評価差額金は376百万円増加しております。

連結損益計算書

自 平成14年4月 1日 至 平成15年3月31日

株式会社 横 浜 銀 行 (単位:百万円)

科具	金額
	益 285,432
	益 177,655
	息 156,028
	金 18,486
コールローン利息及び買入手形利	息 1,107
債券貸借取引受入利	息 0
預 け 金 利	息 1,439
その他の受入利。	息 593
役務取引等収	益 38,938
特定 取引収	益 975
その他業務収	益 56,343
その他経常収	益 11,519
経 常 費	用 258,276
資 金調 達費	用 15,270
預 金 利	息 4,155
譲渡性預金利	息 28
コールマネー利息及び売渡手形利	息 9
売 現 先 利 .	息 0
債券貸借取引支払利。	息 3
借用金利	息 4,778
社 債 利	息 870
その他の支払利。	息 5,424
役務取引等費	用 8,481
特 定 取 引 費	用 157
その他業務費	用 45,906
営 業 経	費 98,897
その他経常費	用 89,563
貸倒引当金繰入	額 7,194
	用 82,369
経常利	益 27,156
特 別 利	益 6,056
	益 1,381
	益 1,138
	益 3,536
	失 2,329
動産不動産処分:	損 2,329
	益 30,883
法人税、住民税及び事業	税 2,404
	額 11,073
	益 508
	益 16,896

(注)

- 1.記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。
- 2.1株当たり当期純利益金額

13円64銭

- 3.潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 11円57銭 なお、当連結会計年度から「1株当たり当期純利益に関する会計基準」(企業会計基準第2号)等が適用されたことに伴う影響額は、連結貸借対照表の注記36.に記載しております。
- 4.特定取引目的の取引については、取引の約定時点を基準とし、当該取引からの損益を連結損益計算書上「特定取引収益」及び「特定取引費用」に計上しております。

特定取引収益及び特定取引費用の損益計上は、当連結会計年度中の受払利息等に、有価証券、金銭債権等については前連結会計年度末と当連結会計年度末における評価損益の増減額を、派生商品については前連結会計年度末と当連結会計年度末におけるみなし決済からの損益相当額の増減額を加えております。

- 5.「その他の特別利益」には、厚生年金基金代行部分返上益3,536百万円を含んでおります。
- 6.市場価格のある株式の配当金については、従来配当金の支払を受けた日の属する連結会計年度に収益計上しておりましたが、当連結会計年度から、各銘柄の配当落ち日(配当権利付き最終売買日の翌日)をもって、前回の配当実績又は公表されている1株当たり予想配当額に基づいて未収配当金を見積もり計上する方法に変更いたしました。

この変更により、従来と同一の方法によった場合に比べ、経常利益及び税金等調整前当期純利益はそれぞれ1,436百万円増加しております。

- 7.「その他の経常費用」には、貸出金償却41,022百万円、株式等償却33,871百万円を含んで おります。
- 8.銀行法施行規則別紙様式が「銀行法施行規則の一部を改正する内閣府令」(平成15年4月22日付内閣府令第47号)により改正されたことに伴い、当連結会計年度から次のとおり表示方法を変更しております。

前連結会計年度において「資金調達費用」中「その他の支払利息」、又は「資金運用収益」中「その他の受入利息」に含めて表示していた現金担保付債券貸借取引に係る受払利息は、当連結会計年度からは、それぞれ同「債券貸借取引支払利息」、又は同「債券貸借取引受入利息」として表示しております。

連結剰余金計算書

自 平成14年4月 1日 至 平成15年3月31日

株式会社 横 浜 銀 行

(単位:百万円)

										(半位 .日77日)
			科				目			金額
	(資	本	剰	余	金	の	部)	
Ì	資	本	剰	余	金	期	首	残	高	146,277
j	資	本	剰	余	:	金	増	加	高	4
		増資	質 に	ょ	る	新	株 0) 発	行	3
		自	己	株	式	処	分	差	益	0
Ì	資	本	剰	余	•	金	減	少	高	0
		連結	子会社	上の洞	沙区	に伴う	ラ剰 余	金減!	少高	0
Ì	資	本	剰	余	金	期	末	残	高	146,281
	(利	益	剰	余	金	の	部)	
7	利	益	剰	余	金	期	首	残	高	103,433
7	利	益	剰	余	:	金	増	加	高	17,229
		当	斯]	紅	ŧ	利		益	16,896
		土地	再評值	洒差	額金	取崩	によ	る増加	n 高	333
7	利	益	剰	余	:	金	減	少	高	7,049
		配			빌	á			金	7,049
7	利	益	剰	余	金	期	末	残	高	113,613

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書

自 平成14年4月 1日 至 平成15年3月31日

株式会社 横浜銀行 単位 :百万円)

_	(単位:百万円)
科 目	金 額
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前当期純利益	30,883
減価償却費	33,811
連結調整勘定償却額	60
貸倒引当金の増加額	19,187
債権売却損失引当金の増加額	12,479
偶発損失引当金の増加額	10
退職給付引当金の増加額	1
資金運用収益	177,655
資金調達費用	15,270
有価証券関係損益()	30,989
為替差損益()	3,490
動産不動産処分損益 ()	948
特定取引資産の純増 ()減	20,218
特定取引負債の純増減 ()	519
貸出金の純増()減	230,127
預金の純増減 ()	264,717
譲渡性預金の純増減()	23,662
借用金 (劣後特約付借入金を除く)の純増減()	19,222
預け金(日銀預け金を除く)の純増()減	24,196
コールローン等の純増 ()減	780
債券貸借取引支払保証金の純増()減	69,316
コールマネー等の純増減()	1,497
外国為替(資産)の純増()減	2,711
外国為替(負債)の純増減()	68
資金運用による収入	196,359
資金調達による支出	18,499
その他	106,211
小計	44,189
法人税等の支払額	1,210
営業活動によるキャッシュ・フロー	42,979
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有価証券の取得による支出	2,291,322
有価証券の売却による収入	1,420,689
有価証券の償還による収入	271,594
動産不動産の取得による支出	22,867
動産不動産の売却による収入	4,825
投資活動によるキャッシュ・フロー	617,079
	3,3.3
財務活動によるキャッシュ・フロー	_
劣後特約付社債 新株予約権付社債の償還による支出	9,997
株式の発行による収入	7
配当金支払額	7,049
少数株主への配当金支払額	140
自己株式の取得による支出	282
自己株式の売却による収入	50
財務活動によるキャッシュ・フロー	17,411
現金及び現金同等物に係る換算差額	33
現金及び現金同等物の増加額	591,544
	·

(注)

- 1.記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。
- 2.連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲は、連結貸借対照表上の「現金預け金」のうち現金及び日本銀行への預け金であります。
- 3.現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

現金預け金勘定	493,925	百万円
日本銀行以外への預け金	16,373	百万円
	477,551	百万円

比較連結貸借対照表 (主要内訳)

株式会社 横 浜 銀 行 単位 古万円)

			(単位:百万円)
科目	当連結会計年度末 (平成15年3月31日) (A)	前連結会計年度末 (平成14年3月31日) (B)	比 較 (A)- (B)
(資産の部)			
現 金 預 け 金	493,925	1,109,666	615,741
コールローン及び買入手形	19,436	61,900	42,464
買入金銭債権	62,341	20,658	41,683
特定取引資産	72,529	52,310	20,219
有 価 証 券	1,492,241	953,716	538,525
貸 出 金	7,833,029	7,593,463	239,566
外 国 為 替	7,582	10,294	2,712
その他資産	133,562	258,074	124,512
動 産 不 動 産	206,014	230,935	24,921
繰 延 税 金 資 産	139,518	147,824	8,306
連結調整勘定	-	156	156
支 払 承 諾 見 返	303,666	436,138	132,472
貸倒引当金	91,051	110,256	19,205
資産の部合計	10,672,796	10,764,882	92,086
(負債の部)			
預金	9,364,106	9,099,005	265,101
譲渡性預金	69,488	93,150	23,662
コールマネー及び売渡手形	276	1,773	1,497
特定取引負債	4,167	4,687	520
借 用 金	221,987	241,210	19,223
外 国 為 替	151	82	69
社	45,999	55,997	9,998
転 換 社 債	-	60,000	60,000
新株予約権付社債	60,000	-	60,000
その他負債	113,721	267,688	153,967
退職給付引当金	68	71	3
債 権 売 却 損 失 引 当 金	1,815	14,295	12,480
偶 発 損 失 引 当 金	-	4,200	4,200
特別法上の引当金	0	0	0
繰 延 税 金 負 債	-	484	484
再評価に係る繰延税金負債	22,536	23,369	833
連結調整勘定	1,450	-	1,450
支 払 承 諾	303,666	436,138	132,472
負債の部合計	10,209,435	10,302,156	92,721
(少数株主持分)			
少数株主持分	6,135	11,458	5,323
(資本の部)			
資本 勘 定	457,225	451,267	5,958
負 債 、少 数 株 主 持 分 及 び 資 本 の 部 合 計	10,672,796	10,764,882	92,086

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

比較連結損益計算書(主要内訳)

株式会社 横 浜 銀 行 (単位:百万円)

				(単位:日万円)
	科目	当連結会計年度 自 平成14年4月 1日 至 平成15年3月31日 (A)	前連結会計年度 自 平成13年4月 1日 至 平成14年3月31日 (B)	比 較 (A) - (B)
経	常 収 益	285,432	310,707	25,275
	資 金 運 用 収 益	177,655	193,838	16,183
	(うち貸出金利息)	(156,028)	(164,267)	(8,239)
	(うち有価証券利息配当金)	(18,486)	(20,142)	(1,656)
	役 務 取 引 等 収 益	38,938	37,813	1,125
	特定取引収益	975	636	339
	その他業務収益	56,343	60,749	4,406
	その他経常収益	11,519	17,669	6,150
経	常 費 用	258,276	277,081	18,805
	資 金 調 達 費 用	15,270	30,578	15,308
	(うち預金利息)	(4,155)	(14,366)	(10,211)
	役 務 取 引 等 費 用	8,481	7,634	847
	特定取引費用	157	6	151
	その他業務費用	45,906	44,430	1,476
	営 業 経 費	98,897	99,956	1,059
	その他経常費用	89,563	94,475	4,912
経	常 利 益	27,156	33,626	6,470
特	別 利 益	6,056	196	5,860
特	別 損 失	2,329	1,435	894
税:	金等調整前当期純利益	30,883	32,387	1,504
法。	人税、住民税及び事業税	2,404	871	1,533
法	人 税 等 調 整 額	11,073	11,963	890
少 (数 株 主 利 益 は 少 数 株 主 損 失)	508	299	807
当	期 純 利 益	16,896	19,852	2,956
				

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

比較連結剰余金計算書(主要内訳)

株式会社 横 浜 銀 行 (単位:百万円)

			(単位、日万円)
科目	当連結会計年度 自 平成14年4月 1日 至 平成15年3月31日 (A)	前連結会計年度 自 平成13年4月 1日 至 平成14年3月31日 (B)	比 較 (A)- (B)
連結剰余金期首残高	-	86,868	86,868
連結剰余金増加高	-	236	236
連結剰余金減少高	-	3,524	3,524
当期 純利 益	-	19,852	19,852
連結剰余金期末残高	-	103,433	103,433
(資本剰余金の部)			
資本剰余金期首残高	146,277	-	146,277
資本剰余金増加高	4	-	4
資本剰余金減少高	0	-	0
資 本 剰 余 金 期 末 残 高	146,281	-	146,281
(利益剰余金の部)			
利益剰余金期首残高	103,433	-	103,433
利 益 剰 余 金 増 加 高	17,229	-	17,229
利益剰余金減少高	7,049	-	7,049
利益剰余金期末残高	113,613	-	113,613

⁽注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

比較連結キャッシュ・フロー計算書

株式会社 横浜銀行

(単位:百万円)

料目当連結会計年度 自 平成14年4月 1日 至 平成15年3月31日 (A)前連結会計年度 自 平成13年4月 1日 至 平成14年3月31日 (B)営業活動によるキャッシュ・フロー(B)	I (A) - (D)
科目自 平成14年4月 1日 至 平成15年3月31日 (A)自 平成13年4月 1日 至 平成14年3月31日 (B)営業活動によるキャッシュ・フロー(B)	(A)-(B)
至 平成15年3月31日至 平成14年3月31日(A)(B)営業活動によるキャッシュ・フロー	I (A) - (D)
(A) (B) 営業活動によるキャッシュ・フロー	
営業活動によるキャッシュ・フロー	
	4.504
税金等調整前当期純利益 30,883 32,387	1,504
減価償却費 33,811 36,814	3,003
連結調整勘定償却額 60 113	173
貸倒引当金の増加額 19,187 5,277	13,910
投資損失引当金の増加額 70	70
債権売却損失引当金の増加額 12,479 8,397	4,082
偶発損失引当金の増加額 10 422	432
退職給付引当金の増加額 1 110	109
資金運用収益 177,655 193,838	16,183
資金調達費用 15,270 30,578	15,308
有価証券関係損益() 30,989 12,959	18,030
為替差損益() 2,176 3,490 2,176	5,666
動産不動産処分損益() 948 1,335	387
特定取引資産の純増()減 20,218 66,395	86,613
特定取引負債の純増減() 519 519	0
貸出金の純増 ()減 230,127 126,670	356,797
預金の純増減() 264,717 229,067	35,650
譲渡性預金の純増減() 23,662 109,420	85,758
借用金 (劣後特約付借入金を除く)の純増減() 19,222 39,653	20,431
預け金 (日銀預け金を除く)の純増 ()減 24,196 11,281	12,915
コールローン等の純増 ()減 780 147,280	146,500
債券貸借取引支払保証金の純増()減 69,316	69,316
債券借入取引担保金の純増()減 69,316	69,316
コールマネー等の純増減 () 1,497 130,811	129,314
外国為替(資産)の純増()減 2,711 2,625	5,336
外国為替 (負債)の純増減 () 68 79	147
資金運用による収入 196,359 208,413	12,054
資金調達による支出 18,499 36,646	18,147
その他 106,211 15,945	122,156
小計 44,189 320,723	276,534
	198
営業活動によるキャッシュ・フロー 42,979 319,711	276,732
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有価証券の取得による支出 2,291,322 769,562	1,521,760
有価証券の売却による収入 1,420,689 929,262	491,427
有価証券の償還による収入 271,594 292,712	21,118
動産不動産の取得による支出 22,867 23,503	636
動産不動産の売却による収入 4,825 3,180	1,645
投資活動によるキャッシュ・フロー 617,079 432,088	1,049,167
財務活動によるキャッシュ・フロー	
労役特約付借入金の返済による支出 — 6,000	6,000
労後特約付社債・転換社債の発行による収入 — 85,000 85,000	85,000
,	00,000
劣後特約付社債・新株予約権付社債の償還 による支出 9,997	9,997
による文山	7
配当金支払額 7,049 3,524	3,525
少数株主への配当金支払額 140 20	120
自己株式の取得による支出 282 100	182
自己株式の売却による収入 50 152	102
財務活動によるキャッシュ・フロー 17,411 75,507	92,918
明令乃7岁用今同笑物上移 Z 協質羊菇	22
現金及び現金同等物に係る換算差額 33 30 30 30 307 007 007	63
現金及び現金同等物の増加額 591,544 827,337	1,418,881
現金及び現金同等物の期首残高 1,069,096 241,759	827,337
現金及び現金同等物の期末残高 477,551 1,069,096	591,545

⁽注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結財務諸表作成の基本となる事項

1. 連結の範囲に関する事項

(1)連結される子会社及び子法人等 1 2社

主要な会社名 横浜ビジネスサービス株式会社

浜銀ファイナンス株式会社

浜銀システムサービス株式会社および株式会社はまぎんジェーシービーは清算により、共益地所株式会社は 保有株式を売却したことにより、当連結会計年度より除外しております。なお、共益地所株式会社は、損益計算 書のみを連結しております。

(2)非連結の子会社及び子法人等

5 社

主要な会社名

Hamagin Leasing (USA) Inc.

非連結の子会社及び子法人等は、その資産、経常収益、当期純損益 (持分に見合づ額)及び利益剰余金 (持分に見合づ額)等からみて、連結の範囲から除いても企業集団の財政状態及び経営成績に関する合理的な判断を妨げない程度に重要性が乏しいため、連結の範囲から除外しております。

- 2. 持分法の適用に関する事項
 - (1)持分法適用の非連結の子会社及び子法人等、関連法人等 該当ありません。
 - (2)持分法非適用の非連結の子会社及び子法人等、関連法人等 5社

主要な会社名

Hamagin Leasing (USA)Inc.

持分法非適用の非連結の子会社及び子法人等、関連法人等は、当期純損益 (持分に見合う額)及び利益剰余金 (持分に見合う額)等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に重要な影響を与えないため、持分法の対象から除いております。

- 3. 連結される子会社及び子法人等の事業年度等に関する事項
 - (1)連結される子会社及び子法人等の決算日は次のとおりであります。

12 月末日

2社

3月末日

10 社

- (2)連結される子会社及び子法人等は、それぞれの決算日の財務諸表により連結しております。 連結決算日と上記の決算日等との間に生じた重要な取引については、必要な調整を行っております。
- 4. 連結される子会社及び子法人等の資産及び負債の評価に関する事項 連結される子会社及び子法人等の資産及び負債の評価については、全面時価評価法を採用しております。
- 5.連結調整勘定の償却に関する事項 連結調整勘定の償却については、5年間の均等償却を行っております。
- 6.利益処分項目等の取扱いに関する事項 連結剰余金計算書は、連結会計期間において確定した利益処分に基づいて作成しております。

セグメント情報

1.事業の種類別セグメント情報

前連結会計年度(自 平成13年4月1日 至 平成14年3月31日)

(金額単位 百万円)

					銀行業	リース業	その他	計	消去又は全社	連	結
経	常		収	岀							
				常収益	258,460	43,673	8,573	310,707		3	10,707
(2)セク	ブメン	ト間の	内部総	Y常収益	1,805	789	3,044	5,640	(5,640)		
		計			260,266	44,463	11,617	316,348	(5,640)	3	10,707
経	常		費	用	226,303	44,049	12,659	283,012	(5,930)	2	77,081
経	常		利	益	33,962	414	1,041	33,335	(290)	,	33,626
									•		
資				産	10,652,170	190,452	182,209	11,024,832	(259,950)	10,70	64,882
減	価	償	却	費	8,053	28,482	278	36,814		• •	36,814
資	本	的	支	田	6,070	23,511	835	30,417		,	30,417

当連結会計年度(自 平成14年4月1日 至 平成15年3月31日)

(金額単位 百万円)

29,214

					銀行業	リース業	その他	計	消去又は全社	連	結
経	常		収	联							
(1)外音	『顧客	に対す	する経	常収益	236,608	38,579	10,244	285,432		28	35,432
(2)セク	ブメント	-間の	内部総	常収益	2,042	383	3,545	5,970	(5,970)		
		計			238,651	38,962	13,790	291,403	(5,970)	28	35,432
経	常		費	用	213,076	38,295	11,855	263,227	(4,950)	25	8,276
経	常		利	芷	25,574	667	1,934	28,176	(1,020)	2	27,156
									1		
資				産	10,539,146	108,354	148,517	10,796,017	(123,220)	10,67	2,796
減	価	償	却	費	7,726	25,771	313	33,811		3	3,811

23.004

6.063

146

29.214

2.所在地別セグメント情報

全セグメントの経常収益の合計額に占める本邦の割合が90%を超えているため、所在地別セグメント情報の記載を 省略しております。

3.国際業務経常収益

国際業務経常収益が連結経常収益の10%未満のため、国際業務経常収益の記載を省略しております。

生産、受注及び販売の状況

銀行業における業務の特殊性のため、該当する情報がないので記載しておりません。

関連当事者との取引

当連結会計年度(自 平成14年4月1日 至 平成15年3月31日) 関連当事者との取引について記載すべき重要なものはありません。

重要な後発事象

当行は、総合リ-ス大手の住商リ-ス株式会社の高度な専門性と機能を連結子会社である浜銀ファイナンス株式会社を通じて地域のお客さまに提供するために、平成15年5月19日付で浜銀ファイナンス株式会社の株式の一部を住商リ-ス株式会社に譲渡する契約を締結いたしました。

⁽注) 1 . 一般企業の売上高及び営業利益に代えて、それぞれ経常収益及び経常利益を記載しております。

^{2.}市場価格のある株式の配当金については、従来配当金の支払いを受けた日の属する連結会計年度に収益計上しておりましたが、当連結会計年度から、各銘柄の配当落ち日 配当権利付き最終売買日の翌日)をもって、前回の配当実績又は公表されている1株当たり予想配当額に基づいて未収配当金を見積もり計上する方法に変更いたしました。この変更により、従来と同一の方法によった場合に比べ、銀行業について経常収益及び経常利益は1,407百万円増加、リース業について経常収益及び経常利益は22百万円増加、その他について経常収益及び経常利益は5百万円増加しております。

1.有価証券関係

- 1.連結貸借対照表の「有価証券」のほか、「特定取引資産」中の商品有価証券、「買入金銭債権」中の信託 受益権を含めて記載しております。
- 2.財務諸表における注記事項である「子会社株式及び関連会社株式で時価のあるもの」については、以下の「(9)」に合わせて記載しております。

(1)売買目的有価証券

(金額単位:百万円)

期別	当連結会計年度末(平成15年3月31日現在)			
種類	連結貸借対照表計上額	当連結会計年度の損益 に含まれた評価差額		
売買目的有価証券	68,572	22		

(2)満期保有目的の債券で時価のあるもの

(金額単位:百万円)

											_ ` _			/
	期別			当連結会計年度末(平成15年3月31日現在)										
				連結貸借	п±	/ #	差	安古						
	種類	į		対照表計上額	'''		計	う	ち	益	う	ち	損	
国		債		-		-		-			-			-
地	方	債		-		-		-			-			-
社		債		20,398		20,352		45			62			107
そ	の	他		2,799		2,800		0		•	0		•	-
合		計		23,198		23,153		44		•	62		•	107

- (注)1.時価は、当連結会計年度末日における市場価格等に基づいております。
 - 2.「うち益」「うち損」はそれぞれ「差額」の内訳であります。

(3)その他有価証券で時価のあるもの

(金額単位:百万円)

$\overline{}$			1	期別	IJ		当連結会計年度末(平成15年3月31日現在)					
	種類		\		_	取得原価	連結貸借 対照表計上額	評価差額	う ち 益	うち損		
株		式			_	212,751	172,511	40,240	8,257	48,498		
債		券				1,118,506	1,123,414	4,908	5,559	651		
			国		債	519,786	520,937	1,151	1,275	124		
			地	方	債	290,747	293,117	2,369	2,561	191		
			社		債	307,971	309,359	1,387	1,722	335		
そ	の	他				131,575	132,584	1,008	1,134	126		
合		計				1,462,832	1,428,509	34,323	14,952	49,275		

- (注)1.連結貸借対照表計上額は、当連結会計年度末日における市場価格等に基づく時価により計上したものであります。
 - 2.「うち益」「うち損」はそれぞれ「評価差額」の内訳であります。
 - 3. その他有価証券で時価のあるもののうち、当該有価証券の時価が取得原価に比べて著しく下落したものについては、原則時価が取得原価まで回復する見込みがないものとみなして、当該時価をもって連結貸借対照表価額とし、評価差額を当連結会計年度の損失として処理(以下「減損処理」という。)しております。

当連結会計年度における減損処理額は、32,277百万円(うち株式32,277百万円)であります。 また、時価が「著しく下落した」と判断するための基準は、資産の自己査定基準において、有価証券の発行 会社区分ごとに次の通り定めております。

破綻先、実質破綻先、破綻懸念先時価が取得原価に比べて下落

要注意先 時価が取得原価に比べて30%以上下落 正常先 時価が取得原価に比べて50%以上下落

なお、要注意先とは今後管理に注意を要する債務者、正常先とは破綻先、実質破綻先、破綻懸念先及び要注 意先以外の債務者であります。

(4) 当該連結会計年度中に売却した満期保有目的の債券

当該連結会計年度中に売却した満期保有目的の債券につきましては、該当ありません。

(5) 当該連結会計年度中に売却したその他有価証券

(金額単位:百万円)

期別	当連結会計年度(自 平	成14年4月1日 至	平成15年3月31日)
種類	売 却 額	売却益の合計額	売却損の合計額
その他有価証券	1,418,461	12,446	8,818

(6)時価のない有価証券の主な内容及び連結貸借対照表計上額

(金額単位:百万円)

	(並設手位・ロノハコ)
	当連結会計年度末
	(平成15年3月31日現在)
満期保有目的の債券	
事業債	58,685
地方公社債	3,409
その他有価証券	
非上場株式(店頭売買株式を除く)	16,967

(7)保有目的を変更した有価証券

当連結会計年度中に、満期保有目的の債券99百万円の保有目的を、債券の発行者の信用状態の著しい悪化の理由により変更し、その他有価証券に区分しております。この変更による経常利益及び税金等調整前当期純利益への影響はありません。

(8) その他有価証券のうち満期があるもの及び満期保有目的の債券の償還予定額

(金額単位:百万円)

_											
	_	_			期	ij	当連結会計年度末(平成15年3月31日現在)				
	種	類		_	<u></u>	/	1 年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10 年 超	
債			券				279,941	881,852	27,002	14,506	
				圕		債	109,792	409,589	1,068	487	
				地	方	債	44,215	237,845	8,775	2,280	
				社		債	125,934	234,416	17,158	11,737	
そ	σ.)	他				22,058	97,365	6,842	12,889	
合			計				302,000	979,218	33,844	27,395	

(9)子会社株式及び関連会社株式で時価のあるもの(単体)

子会社株式及び関連会社株式で時価のあるもの(単体)につきましては、該当ありません。

2.金銭の信託関係

金銭の信託につきましては、該当ありません。

3. その他有価証券評価差額金

連結貸借対照表に計上されているその他有価証券評価差額金の内訳は、次のとおりであります。

(金額単位:百万円)

		(並は十四・口ハコ)
		当連結会計年度末 (平成15年3月31日現在)
評価差額		34,322
	その他有価証券	34,322
	その他の金銭の信託	•
()連結損益語	計算書への評価損益計上額	•
(+)繰延税金	資産	13,878
その他有価	証券評価差額金(持分相当額調整前)	20,443
()少数株主持	寺分相当額	95
	用会社が所有するその他有価証券 両差額金のうち親会社持分相当額	-
その他有価証券	平価差額金	20,348

⁽注)時価がない外貨建その他有価証券に係る換算差額については、「評価差額」の内訳「その他有価証券」に含めて記載しております。

有価証券等

1.有価証券関係

- 1.連結貸借対照表の「有価証券」のほか、「特定取引資産」の商品有価証券を含めて記載しております。
- 2. 財務諸表における注記事項である「子会社株式及び関連会社株式で時価のあるもの」については、以下の「(9)」に合わせて記載しております。

(1)売買目的有価証券

(金額単位:百万円)

		(亜郎11年: 円/313)		
期別	前連結会計年度末(平成14年3月31日現在)			
種類	連結貸借対照表計上額	前連結会計年度の損益 に含まれた評価差額		
売買目的有価証券	47,716	57		

(2)満期保有目的の債券で時価のあるもの

(金額単位:百万円)

											(112	四十四	• п	717/
			期別		前連結	会計年度	末(平成	14年3	月31	日現在	生)			
				連結貸借	時	価	差	額	1					
	種類	Į		対照表計上額	,	į		HA.	う	ち	益	う	ち	損
围		債		9,999		9,999		0			-			0
地	方	債		-		•		-			-			-
社		債		50		50		0			0			-
そ	の	他		-		-		-			-			-
合		計		10,049		10,049		0			0			0

(注)時価は、前連結会計年度末日における市場価格等に基づいております。

(3)その他有価証券で時価のあるもの

(金額単位:百万円)

_									<u> </u>	既十四・ロババン
`		期別		J		前連結会計年度	末(平成14年3	月31日現在)		
	任 粘		\	_		取得原価	連結貸借 対照表計上額	評 価 差 額	= + +	<i>≥ +</i> +=
	種類					対流な町工版			うち益	うち損
株		式				261,264	226,966	34,297	15,439	49,736
債		券				572,491	580,251	7,760	7,860	100
			国		債	128,645	131,448	2,802	2,803	0
			地	方	債	203,265	205,984	2,719	2,725	5
			社		債	240,579	242,817	2,237	2,331	93
そ	Ø	他				45,731	46,030	299	385	86
合		計				879,487	853,249	26,237	23,685	49,923

- (注) 1. 連結貸借対照表計上額は、前連結会計年度末日における市場価格等に基づく時価により計上したものであります。
 - 2. 前連結会計年度において、その他有価証券で時価のある株式について 21,305百万円減損処理を行っております。

時価が「著しく下落した」と判断するための合理的な基準については、時価の下落のほか、債券管理目的上の対象会社の信用リスクに係る評価結果等を加味して設定しております。

(4) 当該連結会計年度中に売却した満期保有目的の債券

(金額単位:百万円)

			期別	前連結会	前連結会計年度(自 平成13年4月1日 至 平成14年3月31日)				
	種類	Į		売 却 原 価	売 却 額	売 却 損 益	売 却 の 理 由		
国		債		•	-	-			
地	方	債		•	-	-			
社		債		222	234	11	私募債の買入消却		
そ	の	他		-	-	-			
合		計		222	234	11			

(5) 当該連結会計年度中に売却したその他有価証券

(金額単位:百万円)

			m		
期別	前連結会計年度(自 平成13年4月1日 至 平成14年3月31日)				
種類	売 却 額	売却益の合計額	売却損の合計額		
その他有価証券	921,635	25,811	14,286		

(6)時価のない有価証券の主な内容及び連結貸借対照表計上額

(金額単位:百万円)

	(亚比一匹,口7)))
	前連結会計年度末 (平成14年3月31日現在)
満期保有目的の債券	
地方公社債	29,113
事業債	39,135
非上場外国債券	4,453
その他有価証券	
非上場株式(店頭売買株式を除く)	15,188

(7)保有目的を変更した有価証券

前連結会計年度中に、満期保有目的の債券 8 6 百万円の保有目的を、債券の発行者の信用状態の著しい悪化の理由により変更し、その他有価証券に区分しております。この変更による経常利益及び税金等調整前当期純利益への影響はありません。

(8) その他有価証券のうち満期があるもの及び満期保有目的の債券の償還予定額

(金額単位:百万円)

	期別 前連結会計年度末(平成14年3月31日現					14年3月31日現	在)		
	種類	Ą	_		/	1 年 以 内	1年超5年以内	5 年超10年以内	10 年 超
債		券				135,092	467,314	28,321	20
			国		債	31,719	88,888	20,841	-
			地	方	債	24,194	181,522	267	-
			社		債	79,178	196,903	7,213	20
そ	Ø	他				14,620	56,672	9,104	-
合		計				149,713	523,986	37,426	20

(9)子会社株式及び関連会社株式で時価のあるもの(単体)

子会社株式及び関連会社株式で時価のあるもの(単体)につきましては、該当ありません。

2.金銭の信託関係

金銭の信託につきましては、該当ありません。

3. その他有価証券評価差額金

連結貸借対照表に計上されているその他有価証券評価差額金の内訳は、次のとおりであります。

(金額単位:百万円)

		前連結会計年度末 (平成14年3月31日現在)
評価差額		26,237
	その他有価証券	26,237
	その他の金銭の信託	-
()連結損益	計算書への評価損益計上額	-
(+)繰延税金	資産	10,890
その他有価	証券評価差額金(持分相当額調整前)	15,347
()少数株主	持分相当額	595
, ,	用会社が所有するその他有価証券 価差額金のうち親会社持分相当額	-
その他有価証券	評価差額金	15,943

(注)時価がない外貨建その他有価証券に係る為替換算差額については、「評価差額」の内訳「その他有価証券」に 含めて記載しております。

デリバティブ取引関係 取引の時価等に関する事項

1.金利関連取引

(金額単位:百万円)

				(🕏	<u> ・額単位:百万円)</u>
		当	連結会	計 年 度	
X			平成 15 年 3 月	31 日現在)	
分	種類	契約額等		時 価	評価損益
			う ち 1 年 超	H47 [JM]	п ш ж ш
	金利先物				
取	売建	-	-	-	-
引	買建	-	-	-	-
١,٠	金利オプション				
所	売建	-	-	-	-
	買建	-	-	-	-
	金利先渡契約				
	売建	-	-	-	-
	買建	-	-	-	-
	金利スワップ				
	受取固定・支払変動	267,940	199,165	4,947	4,947
店	受取変動・支払固定	231,140	191,797	4,743	4,743
	受取変動・支払変動	2,025	19	0	0
	金利オプション				
	売建	-	-	-	-
	買建	-	-	-	-
	キャップ				
	売建	94,951	76,690	69	1,268
頭	買建	11,924	6,720	3	156
	フロアー				
	売建	-	-	-	-
	買建	-	-	-	-
	その他				
	売建	-	-	-	-
	買建	-	-	-	-
	合 計			138	1,315

- (注) 1.上記取引については時価評価を行い、評価損益を連結損益計算書に計上しております。 なお、ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引は、上記記載から除いております。
 - 2 . 時価の算定

店頭取引につきましては、割引現在価値やオプション価格計算モデル等により算出して おります。

(2.通貨関連取引

(金額単位:百万円)

X		当	連結会計年度(平成	成15年3月31日現在)
	種類	契約額等		時 価	評価損益
分			う ち 1 年 超	11.5	#1 IM 32 III
	通貨スワップ	32,298	14,024	14	14
	為替予約				
店	売建	-	-	-	-
	買建	-	-	-	-
	通貨オプション				
	売建	-	-	-	-
	買建	-	-	-	-
頭	その他				
	売建	-	-	-	-
	買建	-	-	-	-
	合 計			14	14

- (注) 1 . 上記取引については時価評価を行い、評価損益を連結損益計算書に計上しております。 なお、ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引及び下記注 3 . の取引は、上記記載か ら除いております。
 - 2.時価の算定

割引現在価値等により算定しております。

3.「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第25号)に規定する経過措置に基づき、期間損益計算を行っている通貨スワップ取引については、上記記載から除いております。

期間損益計算を行っている通貨スワップ取引の契約額等は、下記のとおりであります。

(金額単位:百万円)

千香 米百	当連結会計	当連結会計年度(平成15年3月31日現在)					
種類	契約額等	時 価	評 価 損 益				
通貨スワップ	136,524	1,345	1,345				

また、同様に、先物為替予約、通貨オプション等のうち、連結会計年度末日に引直しを行い、 その損益を連結損益計算書に計上しているもの、及び外貨建金銭債権債務等に付されたもので 当該外貨建金銭債権債務等の連結貸借対照表表示に反映されているもの又は当該外貨建債権債 務等が連結手続上消去されたものについては、記載対象から除いております。

引直しを行っている通貨関連のデリバティブ取引の契約額等は、下記のとおりであります。

(金額単位:百万円)

X		当連結会計年度
	種類	(平成15年3月31日現在)
分		契約額等
	通貨先物	
取	売建	-
引	買建	-
וכ	通貨オプション	
所	売建	-
	買建	-
	為替予約	
	為替予約 売建	13,681
店		13,681 11,631
店	売建	· ·
店	売建 買建	· ·
店	売建 買建 通貨オプション	11,631
店頭	売建 買建 通貨オプション 売建	11,631 17,447
	売建 買建 通貨オプション 売建 買建	11,631 17,447

3 . 株式関連取引

株式関連取引につきましては該当ありません。

4.債券関連取引

(金額単位:百万円)

X		= 7	á連結会計年度 (平		
	種類	契約額等		時 価	評価損益
分			う ち 1 年 超	7.5 ПД	
	債券先物				
取	売建	-	-	-	-
引	買建	-	-	-	-
וכ	債券先物オプション				
所	売建	4,700	-	3	0
	買建	3,000	-	4	0
	債券店頭オプション				
店	売建	-	-	-	-
	買建	-	-	-	-
	その他				
頭	売建	-	-	-	-
	買建	-	-	-	-
	合 計			0	0

- (注) 1.上記取引については時価評価を行い、評価損益を連結損益計算書に計上しております。 なお、ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引は、上記記載から除いております。
 - 2.時価の算定 取引所取引につきましては、東京証券取引所等における最終の価格によっております。

5 . 商品関連取引

商品関連取引につきましては該当ありません。

6. クレジットデリバティブ取引

クレジットデリバティブ取引につきましては該当ありません。

デリバティブ取引関係 取引の時価等に関する事項

1.金利関連取引

(金額単位:百万円)

_					<u> </u>
		前		計 年 度	
X			平成 14 年 3 月	31 日現在)	
分	種類	契約額等		時 価	評価損益
			う ち 1 年 超	Imi	H1 1M 1K III
	金利先物				
取	売建	6,400	3,146	14	14
引	買建	6,357	6,357	22	22
''	金利オプション				
所	売建	-	-	-	-
	買建	-	-	-	-
	金利先渡契約				
	売建	-	-	-	-
	買建	-	-	-	-
	金利スワップ				
	受取固定・支払変動	279,550	161,137	6,264	6,264
店	受取変動・支払固定	233,401	160,640	5,411	5,411
	受取変動・支払変動	4,083	2,083	0	0
	金利オプション				
	売建	-	-	-	-
	買建	-	-	-	-
	キャップ				
	売建	80,728	79,908	259	990
頭	買建	12,140	11,936	25	136
	フロアー				
	売建	-	-	-	-
	買建	-	-	-	-
	その他				
	売建	-	-	-	-
	買建			-	
	合 計			611	1,700

- (注) 1.上記取引については時価評価を行い、評価損益を連結損益計算書に計上しております。 なお、ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引は、上記記載から除いております。
 - 2.時価の算定

取引所取引につきましては、東京金融先物取引所等における最終の価格によっております。 店頭取引につきましては、割引現在価値やオプション価格計算モデル等により算出しております。

2.通貨関連取引

(金額単位:百万円)

X		前連結会計年度(平成14年3月31日現在)			
	種 類	契約額等		時 価	評価損益
分			う ち 1 年 超	H-Q IIII	
店	通貨スワップ	34,587	34,092	20	20
	為替予約				
	売建	-	-	-	-
	買建	-	-	-	=
	通貨オプション				
頭	売建	-	-	-	-
	買建	-	-	-	-
	その他				
	売建	-	-	-	=
	買建	-	-	-	-
	合 計			20	20

- (注) 1 . 上記取引については時価評価を行い、評価損益を連結損益計算書に計上しております。 なお、ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引及び下記注 3 . の取引は、上記記載か ら除いております。
 - 2.時価の算定

割引現在価値等により算定しております。

3.「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する当面の会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第20号)に基づき、期間損益計算を行っている通貨スワップ取引については、上記記載から除いております。

期間損益計算を行っている通貨スワップ取引の契約額等は、下記のとおりであります。

(金額単位:百万円)

種類	前連結会計年度(平成14年3月31日現在)				
作里大只	契約額等 時 価 評価損益				
通貨スワップ	297,307 1,884 1,884				

また、同様に、先物為替予約、通貨オプション等のうち、連結会計年度末日に引直しを行い、 その損益を連結損益計算書に計上しているもの、及び外貨建金銭債権債務等に付されたもので 当該外貨建金銭債権債務等の連結貸借対照表表示に反映されているもの又は当該外貨建債権債 務等が連結手続上消去されたものについては、記載対象から除いております。

引直しを行っている通貨関連のデリバティブ取引の契約額等は、下記のとおりであります。

(金額単位:百万円)

X		前連結会計年度
	種類	(平成14年3月31日現在)
分		契約額等
	通貨先物	
取	売建	-
21	買建	-
引	通貨オプション	
所	売建	-
	買建	-
	為替予約	
	為替予約 売建	31,641
店		31,641 24,443
店	売建	,
店	売建 買建	,
店	売建 買建 通貨オプション	24,443
店頭	売建 買建 通貨オプション 売建	24,443 60,688
	売建 買建 通貨オプション 売建 買建	24,443 60,688

3 . 株式関連取引

株式関連取引につきましては該当ありません。

4.債券関連取引

(金額単位:百万円)

X		育	前連結会計年度(平成14年3月31日現在)		
	種類	契約額等		時 価	評価損益
分			う ち 1 年 超	MI DA	
	債券先物				
取	売建	2,745	-	14	14
引	買建	-	-	-	-
וכן	債券先物オプション				
所	売建	-	-	-	-
	買建	-	-	-	-
	債券店頭オプション				
店	売建	10,000	-	113	9
	買建	-	-	-	-
	その他				
頭	売建	-	-	-	-
	買建	-	-	-	-
	合 計			128	23

(注) 1.上記取引については時価評価を行い、評価損益を連結損益計算書に計上しております。 なお、ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引は、上記記載から除いております。

2.時価の算定

取引所取引につきましては、東京証券取引所等における最終の価格によっております。 店頭取引につきましては、オプション価格計算モデル等により算出しております。

5 . 商品関連取引

商品関連取引につきましては該当ありません。

6. クレジットデリバティブ取引

クレジットデリバティブ取引につきましては該当ありません。

平成15年3月期 決算説明資料

株式会社横浜銀行

【 目 次 】

.平原	뷫 15年 3月期 決算ダイジェスト	単 連	 1
.平原	뷫15年 3月期 決算の概況		
1.	損益状況	単 連	 7
2.	資金平残 (国内業務部門)	単	 9
3.	利回・利鞘(国内業務部門)	単	
4.	有価証券関係損益	単	 10
5.	有価証券の評価損益	単 連	 11
6.	デリバティブ取引 (ヘッジ会計適用分)の概	単	 12
7.	経営合理化の状況	単	 13
8.	業務純益	単	 14
9.	ROE	単	 15
10.	ROA	単	
11.	退職給付費用	単 連	
12.	自己資本比率 (国内基準)	連単	 16
.貸L	出金等の状況		
1.	リスク管理債権の状況	単 連	 17
2.	貸倒引当金等の状況	単 連	 18
3.	リスク管理債権に対する引当率	単 連	
4.	金融再生法開示債権	単	 19
5.	金融再生法開示債権の保全状況	単	
6.	オフバランス化の状況	単	
	引当率 保全率	単	 20
	資産内容の開示における各種基準の比 較	単	 21
7.	業種別貸出状況等	単	 22
8.	国別貸出状況等	単	 25
9.	預金、貸出金の残高	単	 26

.平成 15年 3月期 (平成 14年度)決算ダイジェスト

1.損益の状況

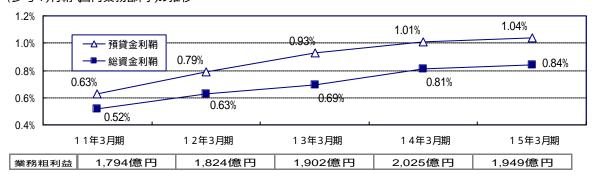
(単位:億円,%)

	1 4年3月期	15年3月期	前期比	増減率
業務粗利益	2,025	1,949	76	3.7
(除〈国債等債券損益(5勘定民))	1,953	1,995	42	2.1
国内業務部門利益	1,949	1,873	76	3.9
資金利益	1,611	1,596	15	
役務取引等利益	253	255	2	
特定取引利益	6	9	3	
その他業務利益	78	11	67	
国際業務部門利益(外貨建部門)	75	75	0	0.0
経費()	944	901	43	4.6
うち人件費()	404	353	51	12.7
うち物件費()	482	492	10	2.1
業務純益 (一般貸倒引当金繰入前)	1,081	1,048	33	3.0
(除〈国債等債券損益(5勘定民))	1,009	1,094	85	8.4
一般貸倒引当金繰入()	0	61	61	
業務純益 (一般貸倒引当金繰入後)	1,080	1,110	30	2.7
うち国債等債券損益 (5勘定尻)	72	45	117	
臨時損益	738	857	119	
うち不良債権処理額()	502	498	4	
(一般貸倒引当金繰入を含む)	503	436	67	
うち株式関係損益	187	295	108	
うち株式等償却()	200	332	132	
経常利益	342	253	89	26.1
特別損益	13	27	40	
法人税等(法人税等調整額を含む)()	124	129	5	
当期利益	204	151	53	25.9

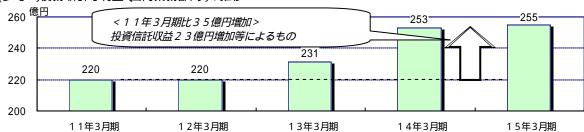
(1)業務粗利益 引き続き高水準を維持

業務粗利益は、引き続き利鞘の拡大および手数料収益の強化等に努めたものの、国債等債券損益の減少 (117億円)等により、前期比 3.7%減の1,949億円となった。

(参考1)利鞘 (国内業務部門)の推移



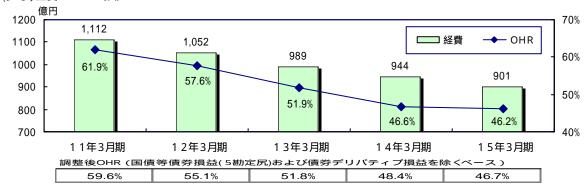
(参考2)役務取引等利益(国内業務部門)の推移



(2)経費 さらなる削減によりOHRは46.2%

経費は、引き続き削減に努めた結果、前期比4.6%減の901億円となり、OHRは46.2%とさらに低下した。

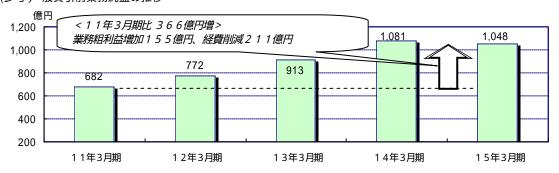
(参考)経費・OHRの推移



(3)業務純益 一般貸引前業務純益は引き続き高水準

業務純益は、業務粗利益が前年度比76億円減少したものの、引き続き経費の削減に努めた 結果、前年度比33億円の減少にとどまり、1,048億円となった。

(参考)一般貸引前業務純益の推移



(4)不良債権処理額 前期比67億円減の436億円を処理

担保評価の厳格化およびDCF法対象先の拡大等を実施する一方、回収および債務者区分の 改善等により不良債権処理額は前期比67億円減の436億円となった。

(5)株式等償却 株価下落の影響により332億円を実施

株価下落の影響により、減損処理額が大幅に増加したため株式等償却は332億円となった。

(参考)株式の減損処理対象銘柄の基準

・時価が簿価を50%以上下回った銘柄 全銘柄

・時価が簿価を30%以上下回った銘柄 ……... 要注意先以下の銘柄・時価が簿価を下回った銘柄 …….. 破綻懸念先以下の銘柄

(6)経常利益・当期利益 株式減損処理を主因に経常利益・当期利益ともに減益

以上のことから、**経常利益**は前期比26.1%減の253億円となった。 **当期利益**については、前期比25.9%減の151億円となった。

2.資産・負債の状況

(1)貸出金 住宅ローンを中心に個人貸出は大幅増加

リージョナル・リテールに注力した結果、個人貸出は住宅ローンを中心に大幅に増加 (26 1 7億円 1 0.0%) し、2兆8,77 5億円となった。

また、個人貸出比率は36.4%へ上昇した。

(参考)リージョナル・リテール関連貸出の推移

(単位:億円,%)

			13年3月末	14年3月末	13年3月末比	15年3月末	14年3月末比
					(増減率)		(増減率)
ь	/l\:/	C業等貸出			(1.5%)		(3.4%)
Τ.	די ני	C 未 寸 貝 山	61.153	62.124	971	64.216	2,092
	٦	ち個人貸出		·	(7.5%)		(10.0%)
			24,323	26,158	1,835	28,775	2,617
	うち住宅系ローン				(9.3%)		(12.1%)
		プラ圧モボローフ	20,843	22,798	1,955	25,561	2,763
		住宅ローン			(14.0%)		(16.4%)
			12,574	14,340	1,766	16,690	2,350
		アパートローン			(2.3%)		(4.9%)
			8,268	8,458	190	8,871	413
中小企業等貸出比率			78.6%	80.3%	1.7%	81.2%	0.9%
		ち個人貸出比率	31.2%	33.8%		36.4%	2.6%
Ь			01.1270	00.070	2.070	00.170	2.070

(2)預金 個人預金は堅調に推移

個人預金が前期末比2.3%増加し、総預金も前期末比2.8%増加(2605億円)と堅調に推移

(参考)預金の推移

(単位:億円,%)

					(=	半位 熄门,%)
		13年3月末	14年3月末	13年3月末比 (増減率)	15年3月末	14年3月末比 (増減率)
Ŧ	預金	88,876	91,138	Q .5%) 2,262	93,743	(2.8%) 2,605
	うち個人預金	63,895	65,677	2 .8%) 1,782	67,213	(2.3%) 1,536
	うち法人預金	17,945	18,503	(3.1%) 558	20,597	(11.3%) 2,094

(3)個人向け商品 投資信託残高は2,000億円台へ

多様化するお客さまのニーズに積極的にお応えした結果、投資信託の残高は、前期末比404億円増加して2,22億円、収益は23億円となった。

また、保険関連の収益も前期比5億円増の7億円と順調に推移している。

(参考1)個人向け商品の推移

(単位:億円)

	13年3月末	14年3月末	13年3月末比	15年3月末	14年3月末比
投資信託残高	1,135	1,818	683	2,222	404
外貨預金残高	578	528	50	632	104

(参考2)個人向け商品の収益状況

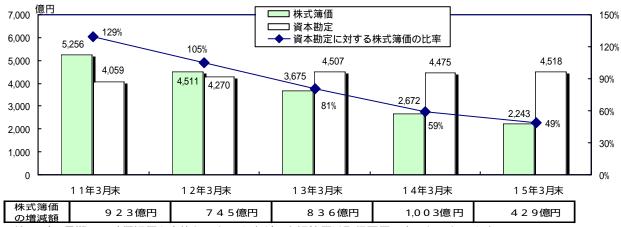
(単位:億円)

(学吃了)個人同じ的品質以上的						
	13年3月期	14年3月期	13年3月期比	15年3月期	14年3月期比	
投資信託 (役務取引等利益)	12	21	9	23	2	
保険関連(役務取引等利益)		2	2	7	5	
外貨預金 (国際部門利益)	15	15	0	12	3	

(4)株式 売切り等により429億円の減少

株式簿価は前期末比429億円減少した。(うち売切り148億円、償却332億円) また、資本勘定に対する比率は引き続き低下して49%となった。

(参考)株式簿価と資本勘定の推移



(注)13年3月期より時価評価を実施しておりますが、上記簿価は取得原価で表示しております。

不良債権比率 0.9ポイント低下し、4%台へ 3. 不良債権の状況

オフバランス化および回収等を進めた結果、不良債権 (金融再生法基準)は前期末比732億円減少。 不良債権比率は4.9%へ0.9ポイント低下。

(参考)金融再生法開示債権の推移

(単位:億円)

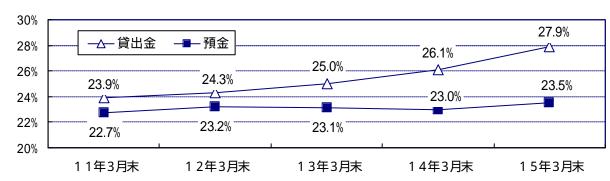
					i	
		13年3月末	14年3月末	13年3月末比	15年3月末	14年3月末比
	破産更生債権及びこれらに準ずる債権 (破綻先・実質破綻先)	860	846	14	506	340
	危険債権 (破綻懸念先)	2,565	2,473	92	2,262	211
	要管理債権	1,939	1,447	492	1,267	180
小	計 <i>(</i> 不良債権) A	5,365	4,767	598	4,035	732
	要管理債権以外の要注意先債権	12,383	11,629	754	10,615	1,014
	正常先債権	64,736	64,648	88	66,664	2,016
	正常債権 B	77,119	76,278	841	77,279	1,001
合	計 (総与信)	82,484	81,046	1,438	81,315	269
						(単位:%)
445						

総与信に占める比率 A/C6.5 5.8 0.7 4.9 0.9

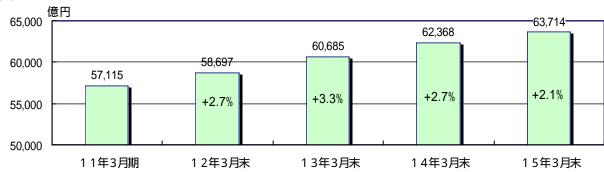
4.神奈川県内の状況 預金・貸出ともにシェア上昇、個人預金・貸出は着実に増加

神奈川県内においては、地域金融機関として経営資源を集中的に投下したことにより、県内シェアは 貸出金が1.8ポイント上昇して27.9%、預金は0.5ポイント上昇して23.5%となった。 個人貸出は年率9.9%と大幅に増加。

(1)神奈川県内シェア



(2)神奈川県内個人預金



(3)神奈川県内中小企業等貸出



(4)神奈川県内個人貸出

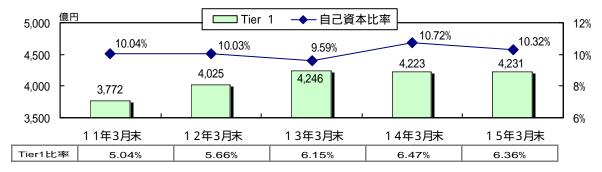


(注)棒グラフ内の数値は年間増加率であります。

5.自己資本比率 引き続き10%を上回る

自己資本比率は、個人ローンの増加を主因とするリスクアセットの増加があったものの、 Tier 1は増加し、前期末に引き続き10%を上回り、10.32%となった。

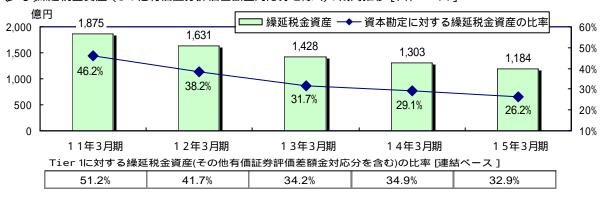
参考)自己資本比率(連結ベース:国内基準)の推移



6.繰延税金資産 残高、比率ともに着実に減少

繰延税金資産の残高および資本勘定に対する繰延税金資産の比率は着実に減少しており、 資本勘定に対する比率は26.2%となった。

(参考) 繰延税金資産 (その他有価証券評価差額金対応分を除く)の残高推移 単体ベース]



7.業績予想 15年度 経常利益・当期利益は大幅改善へ

業務純益 (一般貸倒引当金繰入前)は、引き続きリテールに特化した収益力の強化をはかり14年度を上回る1,055億円を見込んでいる。

経常利益および当期利益は、不良債権処理額および株式関係損益の改善により、前年度比で大幅な増加の見通し。

<単体> (単位:億円)

	15年度中間期予想	前中間比	15年度予想	前年度比
業務粗利益	990	2	1,955	6
経費()	455	1	900	1
業務純益(一般貸倒引当金繰入前)	535	4	1,055	7
不良債権処理額()	250	14	400	36
株式関係損益	50	142	50	245
経常利益	190	140	560	307
当期利益	100	70	315	164

<連結> (単位 億円)

- 		(I III (III)		
	15年度中間期予想	前中間比	15年度予想	前年度比
経常利益	190	154	560	289
当期利益	100	80	315	147

. 平成15年3月期 決算の概況

1.損益状況

単体】 (単位:百万円)

14.1			(半位,日八日)
	1 5年3月期	1 4年3月期比	1 4年3月期
業務粗利益	194,924	7,626	202,550
(除〈国債等債券損益(5勘定尻))	199,523	4,207	195,316
国内業務粗利益	187,351	7,647	194,998
(除〈国債等債券損益(5勘定尻))	193,088	5,517	187,571
資 金 利 益	159,623	1,562	161,185
2 務 取 引 等 利 益	25,596	286	25,310
特 定 取 引	975	339	636
その他業務利益	1,155	6,710	7,865
(うち国債等債券損益)	5,736	13,162	7,426
国際業務粗利益	7,572	20	7,552
(除く国債等債券損益(5勘定尻))	6,435	1,310	7,745
資 金 利 益	4,366	61	4,427
役務取引等利益	535	26	561
特 定 取 引 利 益	157	151	6
その他業務利益	2,827	257	2,570
│ │(うち国債等債券損益)	1,136	1,328	192
経_費 (除く臨時処理分)()	90,068	4,327	94,395
人件費()	35,252	5,132	40,384
物件費()	49,219	1,034	48,185
税 金 ()	5,596	230	5,826
業務純益(一般貸倒繰入前)	104,856	3,299	108,155
除〈国債等債券損益(5勘定尻)	109,455	8,534	100,921
一般貸倒引当金繰入()	6,185	6,249	64
業 務 純 益	111,042	2,951	108,091
<mark>─</mark> うち国債等債券損益(5勘定尻) 臨 時 損 益	4,599	11,833	7,234
	85,722	11,909 367	73,813
不良債権処理額() 貸出金償却()	49,884 37,245	4,229	50,251
個別貸倒引当金繰入額()	9,993	3,242	33,016 13,235
共同債権買取機構売却損 ()	9,993	5,242	13,233
延滞債権等売却損()	526	253	779
信 権 売 却 損 失 引 当 金 繰 入 額 ()	980	1,820	2,800
特定海外債権引当勘定繰入額()	69	60	129
その他()	1,207	658	549
(貸倒償却引当費用 +)	43,698	6,617	50,315
株式等関係損益	29,538	10,780	18,758
株式等売却益	5,229	8,180	13,409
株式等売却損()	1,545	10,563	12,108
株式等償却()	33,222	13,164	20,058
その他の臨時損益	6,299	1,495	4,804
経 常 利 益	25,320	8,957	34,277
特_别損 益	2,756	4,099	1,343
うち動産不動産処分損益	811	536	1,347
動 産 不 動 産 処 分 益	123	77	46
動産不動産処分損()	935	458	1,393
税引前当期利益	28,076	4,857	32,933
法人税、住民税及び事業税()	1,216	1,117	99
法 人 税 等 調 整 額 ()	11,688	684	12,372
当 期 利 益	15,171	5,290	20,461

連結】 単位 :百万円)

	里紀 】			(単位:日万円)
		15年3月期		14年3月期
			14年3月期比	
連	結粗利益 	204,098	6,290	210,388
	資金利益	162,384	876	163,260
	役務取引等利益	30,457	278	30,179
	特定取引利益	818	188	630
	その他業務利益	10,437	5,882	16,319
営	業経費()	98,897	1,059	99,956
貸	到償却引当費用 ()	51,119	4,612	55,731
	貸出金償却	41,022	3,959	37,063
	個別貸倒引当金繰入額	11,004	2,969	13,973
	一般貸倒引当金繰入額	3,741	4,313	572
	その他	2,832	1,289	4,121
株	式等関係損益	26,349	6,145	20,204
持	分法による投資損益	-	-	1
そ	の他 ()	575	294	869
経	常利益	27,156	6,470	33,626
特	別損益	3,726	4,964	1,238
税:	金等調整前当期純利益	30,883	1,504	32,387
法	人税、住民税及び事業税 ()	2,404	1,533	871
法	人税等調整額	11,073	890	11,963
少	数株主利益(は少数株主損失)	508	807	299
当	期純利益	16,896	2,956	19,852

(注) 堕結粗利益」は、(資金運用収益-資金運用費用)+(役務取引等収益-役務取引等費用)

+ (特定取引収益 - 特定取引費用) + (その他業務収益 - その他業務費用)で算出しております。

	15年3月期	1 4年3月期	
		1 4年3月期比	
連結業務純益	107,410	148	107,262

(注) 堕結業務純益」は、単体業務純益 (一般貸倒引当金繰入前)+子会社経常利益

+ 関連会社経常利益×持ち分 - 内部取引 配当等)で算出しております。

(連結対象会社数) (単位:社)

	15年3月期	1 4年3月期	
		1 4年3月期比	
連結子会社数	12	3	15
持分法適用会社数	0	0	0

2. 資金平残 (国内業務部門)

単体】 単位 億円)

			15年3月期		14年3月期		13年3月期
				14年3月期比		13年3月期比	
資金	資金運用勘定		88,597	1,029	87,568	4,456	92,024
	貸出	金	74,844	220	74,624	1,542	76,166
		個人貸出	27,253	2,296	24,957	1,379	23,578
	有価	証券	11,849	135	11,984	2,107	14,091
		債券	9,261	515	8,746	1,223	9,969
		株式	2,588	650	3,238	884	4,122
資金	調達	勘定	89,475	1,135	88,340	3,030	91,370
	預金		85,177	2,030	83,147	1,519	84,666
		個人預金	65,781	1,457	64,324	1,813	62,511

3.利回・利鞘 (国内業務部門)

単体】 単位:%)

			15年3月期		14年3月期		13年3月期
				14年3月期比		13年3月期比	
資金	運用利回	Α	1.95	0.12	2.07	0.03	2.10
	貸出金利回		2.08	0.10	2.18	0.06	2.24
	有価証券利回		1.41	0.15	1.56	0.01	1.57
資金	調達利回	В	0.14	0.09	0.23	0.14	0.37
	預金利回		0.04	0.06	0.10	0.10	0.20
	外部負債利回		2.14	0.51	1.63	0.34	1.29
経費	率		1.00	0.07	1.07	0.03	1.10
資金	調達原価	С	1.11	0.15	1.26	0.15	1.41
資金	運用調達利回差	A - B	1.81	0.03	1.84	0.11	1.73
預貸	金利鞘		1.04	0.03	1.01	0.08	0.93
総資	金利鞘	A - C	0.84	0.03	0.81	0.12	0.69

4. 有価証券関係損益

国債等債券関係損益

 単体】
 単位:百万円)

		15年3月期		1 4年3月期		13年3月期
			14年3月期比		13年3月期比	
国債等債券損益 (5勘定尻)		4,599	11,833	7,234	8,830	1,596
	売却益	6,267	5,152	11,419	8,337	3,082
	償還益	39	14	53	447	500
	売却損	7,002	5,057	1,945	1,671	3,616
	償還損	3,831	1,558	2,273	756	1,517
	償却	72	52	20	45	45

株式等損益

単体】 (単位:百万円)

		15年3月期		14年3月期		13年3月期
			14年3月期比		13年3月期比	
株式等損益 (3勘定尻)		29,538	10,780	18,758	32,478	13,720
	売却益	5,229	8,180	13,409	7,761	21,170
	売却損	1,545	10,563	12,108	8,970	3,138
	償却	33,222	13,164	20,058	15,747	4,311

(参考)株式の売切状況 (単位:百万円)

	15年3月期	14年3月期	13年3月期
株式売切額(簿価ベース)	14,882	81,031	82,154

⁽注)13年3月期につきましては退職給付信託の設定分を含めております。

5 . 有価証券の評価損益

有価証券の評価基準

売買目的有価証券	時価法 (評価差額を損益処理)
満期保有目的の債券	償却原価法
その他有価証券	時価法 (評価差額を全部資本直入)
子会社株式及び関連会社株式	原価法

評価損益

単体】 単位:百万円)

	件】	(辛也.6万万)							
			15年3月末				14年3月末		
		評価損益	-			評価損益			
			14年3月末比	評価益	評価損		評価益	評価損	
満	期保有目的	44	44	62	107	0	0	-	
そ	の他有価証券	34,073	6,461	14,779	48,853	27,612	22,026	49,639	
	株式	39,990	4,318	8,085	48,076	35,672	13,780	49,452	
	債 券	4,908	2,852	5,559	651	7,760	7,860	100	
	その他	1,008	709	1,134	126	299	385	86	
É	計 計	34,117	6,505	14,842	48,960	27,612	22,026	49,639	
	株式	39,990	4,318	8,085	48,076	35,672	13,780	49,452	
	債 券	4,863	2,897	5,621	758	7,760	7,860	100	
	その他	1,009	710	1,135	126	299	385	86	

(注) その他有価証券」については、時価評価しておりますので、上記の表上は、貸借対照表価額と取得価額との 差額を計上しております。

連結】 (単位:百万円)

	-NH 4		15年3	3月末		14年3月末			
		評価損益	-			評価損益			
			14年3月末比	評価益	評価損		評価益	評価損	
;	満期保有目的	44	44	62	107	0	0	0	
]	その他有価証券	34,323	8,086	14,952	49,275	26,237	23,685	49,923	
	株式	40,240	5,943	8,257	48,498	34,297	15,439	49,736	
	債 券	4,908	2,852	5,559	651	7,760	7,860	100	
	その他	1,008	709	1,134	126	299	385	86	
	合 計	34,367	8,129	15,015	49,382	26,238	23,685	49,924	
	株式	40,240	5,943	8,257	48,498	34,297	15,439	49,736	
	債 券	4,863	2,896	5,621	758	7,759	7,860	101	
	その他	1,009	710	1,135	126	299	385	86	

⁽注) その他有価証券」については、時価評価しておりますので、上記の表上は、連結貸借対照表価額と取得価額 との差額を計上しております。

6. デリバティブ取引(ヘッジ会計適用分)の概要

単体】 単位:百万円)

			1 5年	3月末					
		資産	負 債	負 債 ネット評価損益 -					
	金利スワップ	6,945	11,259	4,314	3,618				
合	計	6,945	11,259	4,314	3,618				

- (注) 1 . デリバティブ取引については、 '金利スワップの特例処理」を適用しているものを除き、時価をもって貸借対照表価額として計上しております(上表の 及び)。
 - 2. 損益処理方法については以下のとおりです。
 - ・ヘッジ会計の方法として、主にマクロヘッジの一手法である「リスク調整アプローチ」を適用し、繰延ヘッジ会計処理を行っております。
 - ・繰延ヘッジ会計処理とは、ヘッジ手段であるデリバティブ取引の損益(時価会計)のうち、ヘッジ対象の損益(発生主義会計)に対応しない部分を資産又は負債として繰り延べる方法です。 具体的には、デリバティブ取引に係るネット評価損益(上表の -)から発生主義会計の場合に計上する経過利息相当額を除いた金額が繰り延べている損益(上表の)となります。
 - ・ヘッジ対象の受払条件を変換することを目的とし、想定元本、利息の受払条件及び契約期間などについて一定の要件を満たすスワップ取引については金融商品会計基準に基づく金利スワップの特例処理」により時価評価せず、従来と同様に発生主義により損益を認識しております。

(補足)金利スワップ(繰延ヘッジ会計適用分)の残存期間別想定元本は以下のとおりです。

単体】 単位:百万円)

			1 5年	3月末	
		1年以内	1年超5年以内	5年超	合計
	うち受取固定・支払変動	87,000	168,500	1	255,500
	うち受取変動・支払固定	96,200	116,400	1	212,600
金利	スワップ想定元本合計	183,200	284,900	•	468,100

7.経営合理化の状況

経費の推移

単体】 単位:百万円)

		15年3月期		14年3月期		13年3月期
			14年3月期比		13年3月期比	
	人件費	35,252	5,132	40,384	4,424	44,808
	物件費	49,219	1,034	48,185	222	47,963
	税金	5,596	230	5,826	340	6,166
	経費	90,068	4,327	94,395	4,544	98,939
参 考)						
0	HR	46.2	0.4	46.6	5.3	51.9

営業経費の内訳

単体】 (単位:百万円)

年	15年3月期		14年3月期		13年3月期
		14年3月期比		13年3月期比	
給料·手当	28,479	3,764	32,243	3,371	35,614
退職給付費用	9,251	3,777	5,474	1,496	3,978
福利厚生費	309	55	364	24	388
減価償却費	7,365	297	7,662	643	8,305
土地建物機械賃借料	7,547	643	8,190	1,803	9,993
営繕費	241	57	184	18	202
消耗品費	1,147	78	1,225	310	1,535
給水光熱費	1,413	183	1,596	126	1,722
旅費	108	3	111	18	129
通信費	1,258	80	1,338	339	1,677
広告宣伝費	809	25	834	379	1,213
諸会費 寄付金 交際費	417	88	505	60	565
租税公課	5,596	230	5,826	340	6,166
その他	32,823	942	31,881	2,726	29,155
営業経費	96,770	667	97,437	3,211	100,648

人員の推移

単体】 単位 (人)

	15年3月末		14年3月末		13年3月末
		14年3月末比		13年3月末比	
総人員	3,869	400	4,269	546	4,815
実働人員	3,070	376	3,446	433	3,879
役員	11	1	12	0	12
執行役員	7	2	9	1	8

店舗等の推移

個内店舗数の推移》

単体】 (単位 店舗)

	15年3月末		14年3月末		13年3月末
		14年3月末比		13年3月末比	
本支店	157	0	157	2	159
出張所	26	2	28	4	24
店舗数	183	2	185	2	183
参 考)					
無人店舗数	312	8	320	6	326

海外拠点数の推移》

単体】 (単位:店舗)

	15年3月末		14年3月末		13年3月末
		14年3月末比		13年3月末比	
支店	0	0	0	0	0
出張所	0	0	0	0	0
駐在員事務所	4	0	4	2	6
拠点数	4	0	4	2	6
現地法人	0	0	0	1	1

8.業務純益

単体】 (単位:百万円)

		15年3月期		1 4年3月期		13年3月期
			14年3月期比		13年3月期比	
業	義務純益 (一般貸倒繰入前)	104,856	3,299	108,155	16,824	91,331
	職員一人当たり(千円)	32,184	2,654	29,530	7,019	22,511
業	終純益	111,042	2,951	108,091	16,952	91,139
	職員一人当たり(千円)	34,082	4,570	29,512	7,048	22,464

⁽注)職員一人当たり利益」において、職員数は実働人員(出向者を除くベース)の平残を使用して算出しております。

単体】 単位:%)

	15年3月期		14年3月期		13年3月期
		14年3月期比		13年3月期比	
業務純益 (一般貸倒繰入前)ベース	29.59	0.99	30.58	4.04	26.54
当期利益ベース	3.94	1.53	5.47	2.08	7.55

業務純益 (または当期利益) - 優先株式配当金総額

[(期首資本 - 期首優先株式発行済価額)+ (期末資本 - 期末優先株式発行済価額)]/ 2

10. ROA

(注) ROE = -

単体】 単位:%)

	15年3月期		14年3月期		13年3月期
		14年3月期比		13年3月期比	
業務純益 (一般貸倒繰入前)ベース	1.08	0.03	1.11	0.20	0.91
当期利益ベース	0.15	0.06	0.21	0.06	0.27

(注) ROA = 業務純益 (または当期利益) 総資産 (除く支払承諾見返) 平均残高

11.退職給付費用

単体】 単位:百万円)

		15年3月期		14年3月期		13年3月期
			14年3月期比		13年3月期比	
退	職給付費用	5,715	241	5,474	11,187	16,661
	勤務費用	2,232	34	2,198	468	2,666
	利息費用	3,405	349	3,754	158	3,912
	期待運用収益	2,914	473	3,387	748	4,135
	会計基準変更時差異処理額				15,860	15,860
	その他	2,991	83	2,908	4,550	1,642

連結】 (単位:百万円)

	15年3月期		14年3月期		13年3月期
		14年3月期比		13年3月期比	
退職給付費用	5,733	142	5,591	11,217	16,808

12.自己資本比率 (国内基準)

踵結】 (単位:億円)

		15年3月末		14年3月末		13年3月末
		速報値]	14年3月末比		13年3月末比	
(1	自己資本比率	10.32 %	0.40 %	10.72 %	1.13 %	9.59 %
	Tier 比率	6.36 %	0.11 %	6.47 %	0.32 %	6.15 %
(2	Tier	4,231	8	4,223	23	4,246
(3	Tier	2,641	142	2,783	384	2,399
	うち自己資本に計上された土地再評価差額	250	3	253	2	255
	うち劣後ローン (債券)残高	2,049	100	2,149	392	1,757
(4	控除項目 他の金融機関の資本調達手段の 意図的な保有相当額	8	0	8	20	28
(5	自己資本 (2)+(3)-(4)	6,863	135	6,998	380	6,618
(6	リスクアセット	66,508	1,227	65,281	3,726	69,007
	うちオンバランス	64,446	2,340	62,106	3,305	65,411
	うちオフバランス	2,062	1,112	3,174	421	3,595

		15年3月末		14年3月末		13年3月末
		速報値]	14年3月末比		13年3月末比	
(1	自己資本比率	10.22 %	0.32 %	10.54 %	1.03 %	9.51 %
	Tier 比率	6.28 %	0.01 %	6.29 %	0.24 %	6.05 %
(2	Tier	4,116	41	4,075	25	4,100
(3	Tier	2,593	164	2,757	391	2,366
	うち自己資本に計上された土地再評価差額	250	3	253	2	255
	うち劣後ローン (債券)残高	2,049	100	2,149	392	1,757
(4	控除項目 他の金融機関の資本調達手段の意図的な保有相当額	8	0	8	20	28
(5	自己資本 (2)+(3)-(4)	6,701	124	6,825	387	6,438
(6	リスクアセット	65,544	843	64,701	2,968	67,669
	うちオンバランス	63,942	1,900	62,042	2,586	64,628
	うちオフバランス	1,602	1,057	2,659	382	3,041

. 貸出金等の状況

1.リスク管理債権の状況

単体】

リスク管理債権等の残高

(単位:百万円)

		15年3月末	14年3月末比	14年3月末	13年3月末比	13年3月末
IJ	破綻先債権額	14,953	12,692	27,645	8,137	19,508
スク	延滞債権額	259,566	42,589	302,155	18,105	320,260
管理	3カ月以上延滞債権額	15,190	2,237	12,953	4,077	8,876
理 債	貸出条件緩和債権額	111,521	20,261	131,782	53,305	185,087
権	合 計	401,231	73,305	474,536	59,197	533,733
	(部分直接償却額)	(202,342)	(1,864)	(200,478)	(3,348)	(203,826)
貸出金残高 (末残)		7,902,054	167,038	7,735,016	66,177	7,801,193

⁽注) 1. リスク管理債権額は、部分直接償却を実施後の金額で表示しております。

貸出残高比率 (単位:%)

		15年3月末	14年3月末比	14年3月末	13年3月末比	1 3年3月末
貸	破綻先債権額	0.1	0.2	0.3	0.1	0.2
出	延滞債権額	3.2	0.7	3.9	0.2	4.1
残高	3 カ月以上延滞債権額	0.1	0.0	0.1	0.0	0.1
比率	貸出条件緩和債権額	1.4	0.3	1.7	0.6	2.3
4	合 計	5.0	1.1	6.1	0.7	6.8

連結】

リスク管理債権等の残高

(単位:百万円)

		15年3月末	14年3月末比	14年3月末	1 3年3月末比	1 3年3月末
IJ	破綻先債権額	15,250	13,020	28,270	7,937	20,333
スク	延滞債権額	244,736	66,424	311,160	20,021	331,181
管	3 カ月以上延滞債権額	15,255	2,124	13,131	4,198	8,933
理 債	貸出条件緩和債権額	119,017	17,053	136,070	49,017	185,087
権	合 計	394,259	94,374	488,633	56,902	545,535
	(部分直接償却額)	(214,953)	(828)	(215,781)	(4,031)	(219,812)
貸出	l金残高 (未残)	7,833,029	239,566	7,593,463	126,670	7,720,133

⁽注) 1. リスク管理債権額は、部分直接償却を実施後の金額で表示しております。

貸出残高比率 (単位:%)

		15年3月末	14年3月末比	14年3月末	13年3月末比	1 3年3月末
貸	破綻先債権額	0.1	0.2	0.3	0.1	0.2
出	延滞債権額	3.1	0.9	4.0	0.2	4.2
残高	3 カ月以上延滞債権額	0.1	0.0	0.1	0.0	0.1
比率	貸出条件緩和債権額	1.5	0.2	1.7	0.6	2.3
4	合 計	5.0	1.4	6.4	0.6	7.0

^{2 .} 未収利息不計上の基準は、自己査定に基づ〈債務者区分により行っております。

^{2 .} 未収利息不計上の基準は、自己査定に基づく債務者区分により行っております。

2.貸倒引当金等の状況

貸倒引当金

単体】 (単位:百万円)

_	<u>'T' </u>					
		15年3月末		14年3月末		13年3月末
			14年3月末比		13年3月末比	
貸倒	引当金	83,324	21,409	104,733	4,510	109,243
	一般貸倒引当金	29,271	6,186	35,457	64	35,393
	個別貸倒引当金	54,052	15,145	69,197	4,448	73,645
	特定海外債権引当勘定		77	77	127	204

連結】 単位:百万円)

		15年3月末		14年3月末		13年3月末
			14年3月末比		13年3月末比	
貸倒	引当金	91,051	19,205	110,256	5,278	115,534
	一般貸倒引当金	34,046	3,920	37,966	793	38,759
	個別貸倒引当金	57,004	15,208	72,212	4,358	76,570
	特定海外債権引当勘定		77	77	127	204

特定債務者支援引当金 該当ございません。

債権売却損失引当金

単体】 単体】 単位:百万円、%)

		15年3月末		14年3月末		13年3月末
			14年3月末比		13年3月末比	
債権売却損失引当金	Α	1,815	12,480	14,295	8,397	22,692
買取機構向け貸出金残高	В	2,794	13,900	16,694	13,380	30,074
引当率 (%)	A/B	64.9	20.7	85.6	10.2	75.4

3. リスク管理債権に対する引当率

		15年3月末		14年3月末		13年3月末	
			14年3月末比		13年3月末比		
用可贷周司业会	部分直接償却前	42.8	2.8	40.0	2.4	37.6	
個別貸倒引当金	部分直接償却後	13.4	1.1	14.5	0.8	13.7	
貸倒引当金	部分直接償却前	47.7	2.5	45.2	2.7	42.5	
貝均기当並	部分直接償却後	20.7	1.3	22.0	1.5	20.5	

連結】 単位:%)

		15年3月末		14年3月末		13年3月末
			14年3月末比		13年3月末比	
用可贷周司业会	部分直接償却前	45.1	4.0	41.1	2.2	38.9
個別貸倒引当金	部分直接償却後	14.4	0.3	14.7	0.7	14.0
貸倒引当金	部分直接償却前	50.7	4.3	46.4	2.4	44.0
貝切りコ本	部分直接償却後	23.0	0.5	22.5	1.4	21.1

4.金融再生法開示債権

単体】 単体】 (単位:百万円、%)

	TT' A						
			15年3月末		14年3月末		13年3月末
				14年3月末比		13年3月末比	
	破産更生債権及び これらに準ずる債権	А	50,679	33,943	84,622	1,442	86,064
	危険債権	В	226,200	21,180	247,380	9,154	256,534
	要管理債権		126,711	18,024	144,735	49,229	193,964
要管	查理債権以下 計	С	403,590	73,148	476,738	59,825	536,563
	要管理債権以外の 要注意先債権		1,061,509	101,483	1,162,992	75,315	1,238,307
	正常先債権		6,666,434	201,544	6,464,890	8,721	6,473,611
正常	- 常債権 計		7,727,943	100,061	7,627,882	84,037	7,711,919
合	計	D	8,131,534	26,913	8,104,621	143,862	8,248,483
要管	営理先債権	Е	149,529	19,831	169,360	44,383	213,743
要管	管理債権以下の割合	C/D	4.9	0.9	5.8	0.7	6.5

5 . 金融再生法開示債権の保全状況

単体】 単位 :百万円、%)

一								
		15年3月末		14年3月末		13年3月末		
			14年3月末比		13年3月末比			
保	全額 F	323,723	61,343	385,066	12,070	372,996		
	貸倒引当金	67,134	15,699	82,833	10,382	93,215		
	特定債務者引当金	-	-	-	-	-		
	担保保証等	256,588	45,645	302,233	22,453	279,780		
保	全率 (%) F/C	80.2	0.5	80.7	11.2	69.5		
保	全率 (%) F/(A+B+E)	75.9	0.9	76.8	9.8	67.0		

6.オフバランス化の状況

単体】 単位 億円)

			15年3月末				14年3月末
				14年3月末比			
					新規発生額	オフパランス化額	
	破産更生債権及び これらに準ずる債権	А	506	340	112	452	846
	危険債権	В	2,262	211	668	880	2,473
合	計	A + B	2,768	552	781	1,332	3,320

引当率・保全率

単体】

14 1			(単位 :億円)							
自己查定[債務者区:		金融再生 法に基づく 開示債権	非分類	分類	類 分類	分類	引当金	引当率	保全率	
実質研	52 32) 安綻先	破産更生債権 およびこれら に準ずる債権 506 (340)	引当金 st 等によるが 148 (76)	型保·保証 保全部分 358 (263)	全額引当 0 (0)	全額償却 引当 0 (0)	63	100%	100%	
破綻懸念先 2,262 (211)		危険債権 2,262 (211)	引当金寸 等による 742 (142) [267]	旦保 保証 保全部分 1,112 (55) [1,112]	必要額を 引当 407 (124) [882]		475	53.87%	82.00%	
西 注	要管理先 1,495 (198)	要管理債権 1,267 (180)		7 4 2 7 5 2 1,369 (132)	[]内の計数は 引当前の分類額		132	17.66%	58.54%	
要注意先 11,882 (1,195)	要管理先 以外の要 注意先 10,386 (997)	正常債権	3,391 (790)	6,995 (206)			118	1.14%		
正常先 66,664 (2,016)		77,279 (1,001)	66,664 (2,016)				41	0.06%		
合 81,3 (26 100	315 9)	合計 81,315 (269)	非分類 71,072 (941) 87.4%	分類 9,835 (547) 12.1%	分類 407 (124) 0.5%	分類 0 (0) 0.0%	合計 831		要管理先 以下合計 75.91%	

⁽⁾内は14年3月期との増減額を表示しております。

資産内容の開示における各種基準の比較

単体】

自己査定に 債務者区分			法に基づ〈開示債 対象 :総与信)	責権	リスク管理債権 (対象:貸出金)
対象 総	与信)		うち貸	出金	
破綻 分 152億		破産更生債権および これらに準ずる債権		149億円	破綻先債権 1 4 9億円
実質破約 353億		506億円	486億円	3 3 6億円	延滞債権 2 , 5 9 5億円
破綻懸念先 2,262億円		危険債権 2,262億円	2,258億円		1 / 0 0 0 pgq 5
	要管理先 1,495億円	要管理債権 1,267億円	151億円		3 ヵ月以上延滞債権 1 5 1億円
	1 , 4 J J [64]	(注)要管理債権に		1 , 1 1 5億円	貸出条件緩和債権 1,115億円
要注意先		小計 4 , 0 3 5億円	小 4 , 0 1		合計 4,012億円
σ	要管理先以外 D要注意先 10,386億円				
正常分66,66		正常債権 77,279億円	75,0	0 8億円	
合計 81,31		合計 81,315億円	合i 79 , 0		

7.業種別貸出状況等

平成14年3月7日付総務省告示第139号により 日本標準産業分類」が改訂され、同年10月1日から適用されたことに伴い、 国内店分 (除く特別国際金融取引勘定)」に係る各業種別の貸出金残高、リスク管理債権残高および金融再生法開示債権残高は、14年3月末および13年3月末は改訂前の日本標準産業分類の区分にもとづき、15年3月末は改訂後の日本標準産業分類の区分にもとづき記載しております。

業種別貸出金

_ 単体】					<u>(単位 :百万円)</u>
	15年3月末		14年3月末		13年3月末
		14年3月末比		13年3月末比	
国内店分 (除《特別国際金融取引勘定)		/	7,731,126	46,375	7,777,501
製 造 業			1,123,099	19,569	1,142,668
農業			8,747	191	8,556
林 業			58	8	66
漁業			3,043	1,198	4,241
鉱業			7,731	948	6,783
建 設 業			503,428	1,668	505,096
電気・ガス 熱供給・水道業			16,507	1,228	15,279
運輸・通信業			320,866	17,714	303,152
卸売·小売業、飲食店			902,994	60,105	963,099
金融・保険業			387,885	44,627	432,512
不 動 産 業			827,038	82,378	909,416
サービス業			921,119	29,173	950,292
地方公共団体			75,123	15,953	91,076
そ の 他			2,633,484	188,222	2,445,262
国内店分(除ぐ特別国際金融取引勘定)	7,899,397				
製 造 業	1,098,632				
農業	8,531				
林 業	55				
漁業	3,133				
鉱業	8,199				
建設業	465,319				
電気・ガス 熱供給・水道業	16,543				
情 報 通 信 業	50,979				
運輸業	352,886				
卸 売 ・ 小 売 業	811,551				
金融・保険業	370,000				
不 動 産 業	824,032				
各 種 サ ー ビ ス 業	926,560				
地方公共団体	69,497				
そ の 他	2,893,478			/	

業種別リスク管理債権

里体】					(単位:百万円)
	15年3月末		14年3月末		13年3月末
		14年3月末比		13年3月末比	
国 内 店 分 除《特別国際金融取引勘定)			473,715	56,040	529,755
製 造 業			41,068	4,582	45,650
農業			271	220	491
林 業					
漁業			470	34	436
鉱業			13	13	0
建 設 業			63,077	1,286	64,363
電気・ガス 熱供給・水道業			738	712	26
運 輸 ・ 通 信 業			8,649	1,377	10,026
卸売・小売業、飲食店			78,330	2,013	80,343
金融・保険業			8,837	32,581	41,418
不 動 産 業			156,944	19,084	176,028
サービス業			64,048	805	63,243
地方公共団体					
そ の 他			51,266	3,541	47,725
国 内 店 分 (除ぐ特別国際金融取引勘定)	400,945	/		/	/
製 造 業	46,089				
農業	209				
林 業					
漁業	452				
鉱業	91				
建 設 業	41,535				
電気・ガス 熱供給・水道業					
情 報 通 信 業	1,082				
運 輸 業	5,857				
卸 売 ・ 小 売 業	56,330				
金融・保険業	26,643				
不 動 産 業	121,070				
各 種 サ - ビ ス 業	49,614				
地方公共団体					
そ の 他	51,967				

業種別金融再生法開示債権

単体】 単位:百万円)

里体】				(単位:百万円)	
	1 5年 3月末		1 4年 3月末		13年3月末
		14年3月末比		13年3月末比	
国 内 店 分 《除《特別国際金融取引勘定)			475,917	56,666	532,583
製 造 業			41,200	4,537	45,737
農業			271	222	493
林 業			-	-	
漁業			470	34	436
鉱業			13	13	0
建 設 業			63,285	1,209	64,494
電気・ガス・熱供給・水道業			738	712	26
運輸・通信業			8,651	1,377	10,028
卸売・小売業、飲食店			78,959	2,623	81,582
金 融 ・ 保 険 業			8,846	32,596	41,442
不 動 産 業			157,262	19,091	176,353
サービス業			64,550	836	63,714
地方公共団体	/	/	-	-	-
そ の 他		/	51,667	3,393	48,274
国 内 店 分 (除ぐ特別国際金融取引勘定)	403,304				/
製 造 業	46,270				
農業	255				
林 業	-				
漁業	452				
鉱業	91				
建 設 業	41,629				
電気・ガス・熱供給・水道業	-				
情 報 通 信 業	1,084				
運輸業	5,858				
卸売・小売業	56,623				
金融・保険業	27,209				
不 動 産 業	121,195				
		/			
各種サービス業	49,997	/	/	l /	l <i>1</i>
	49,997				
	49,997 - 52,665				

⁽注)要管理債権以下の債権を対象としております。

中小企業等貸出残高および貸出比率

単体】 単位:百万円、%)

	15年3月末		14年3月末		13年3月末
		14年3月末比		13年3月末比	
中小企業等貸出残高	6,421,626	209,219	6,212,407	97,074	6,115,333
中小企業等貸出比率	81.2	0.9	80.3	1.7	78.6

消費者ローン残高

単体】 単位 :百万円)

		15年3月末		14年3月末		13年3月末
			14年3月末比		13年3月末比	
消	費者ローン残高	2,877,513	261,649	2,615,864	183,505	2,432,359
	住宅系ローン	2,556,179	276,341	2,279,838	195,491	2,084,347
	住宅ローン	1,669,037	235,004	1,434,033	176,558	1,257,475
	アパートローン	887,142	41,337	845,805	18,933	826,872
	その他のローン	321,334	14,692	336,026	11,986	348,012

8. 国別貸出状況等

特定海外債権残高

単体】 (単位:百万円、ヶ国)

	15年3月末		14年3月末		13年3月末
		14年3月末比		13年3月末比	
債権額		299	299	285	584
対象国数		1	1	1	2

地域別貸出金残高

単体】 (単位:百万円)

	_	15年3月末		14年3月末		13年3月末
			14年3月末比		13年3月末比	
ア	/ジア向け	4,862	3,638	8,500	13,073	21,573
	うちリスク管理債権	286	534	820	3,158	3,978
中	南米向け	2,519	736	3,255	375	3,630
	うちリスク管理債権					
	コシア向け					
	うちリスク管理債権					_

9. 預金、貸出金の残高

預金・貸出金の末残・平残

単体】 単位:億円)

		15年3月期		14年3月期		13年3月期
			14年3月期比		13年3月期比	
預 金	(末 残)	93,743	2,605	91,138	2,262	88,876
	(平 残)	86,023	853	85,170	904	86,074
貸出金	(末 残)	79,020	1,670	77,350	661	78,011
	(平 残)	75,040	76	74,964	1,754	76,718

預金者別預金末残 (特別国際金融取引勘定を除く国内店分)

単体】 (単位:億円)

	PT						
			15年3月末		14年3月末		13年3月末
				14年3月末比		13年3月末比	
法	人		20,597	2,094	18,503	558	17,945
		うち流動性預金	16,712	2,348	14,364	2,849	11,515
		うち定期性預金	3,398	431	3,829	2,177	6,006
個	人		67,213	1,536	65,677	1,782	63,895
		うち流動性預金	35,161	4,561	30,600	6,341	24,259
		うち定期性預金	31,400	3,126	34,526	4,484	39,010
公	金		4,160	1,569	5,729	132	5,597
		うち流動性預金	3,781	533	4,314	2,025	2,289
		うち定期性預金	16	9	25	168	193
金	融		1,772	545	1,227	185	1,412
		うち流動性預金	1,128	400	728	195	923
		うち定期性預金	32	7	25	32	57
合	計		93,743	2,605	91,138	2,287	88,851
		うち流動性預金	56,784	6,776	50,008	11,021	38,987
		うち定期性預金	34,847	3,559	38,406	6,862	45,268

(注)流動性預金=当座預金+普通預金+貯蓄預金+通知預金 定期性預金=定期預金+定期積金

^{1.}本資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境の変化などにより、見通しと異なる可能性があることにご留意ください。

^{2.}本資料には、証券取引法第166条に定められた重要事実に該当する情報が含まれている可能性があります。当行が証券取引法施行令第30条の規定に基づき報道機関に重要事実を公開した後12時間以内に、当行ホームページなどを通じて、重要事実を入手した方が、当行の株式などの売買等を行った場合、インサイダー取引規制の適用対象となり、証券取引法の規定に抵触するおそれがありますのでご留意ください。